

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始





茶道  
ららのとまや 五之巻

目次

- 一 七事式の事
- 一 花月式
- 一 炭付花月式
- 一 濃茶付花月式
- 一 花付花月式
- 一 香付花月式
- 一 結び帛紗の事

大正  
2. 10. 21  
内文

茶  
千立屋  
編



- 一通ひ付花月式
- 一四疊半花月式
- 一附たり雪月花式
- 一茶カフキの式

茶道  
ららのとまや 五之卷

七事式の事

- 一花月、薄茶を常法の如く爲して香札を以て茶を點ずる事、月の札當りたる者は茶を呑み花の札は手前に行き茶を點つる事を爲す
- 一旦座、主客五人にて香、炭、花、濃茶、薄茶を各々に勤む
- 一廻り花の式、草花五種又は七種を集め置き



一個の花器に主客各意の如くに入らるゝを云ふ

一茶カフキ、茶元各家々の茶を取寄せ置き十種香の如くに爲して其品を試る事を云ふ

一廻り炭、一つの爐に主客共に意の如く種々に炭をつぐ事を云ふ

一一二三、濃茶又は其他の手前を爲し客方は其優劣を各十種香の札を以て評を下す

一員茶、亭主は薄茶を點て客方は銘々に十種香の札を持ち居り札の繪を合せて茶を飲む

ことを云ふ

一此他花寄、雪月花、仙遊等も共に七事式と云ふ

### 花月式

一普通花月の式は主客共に五人を以て一組とし各々札を取り主客を定め薄茶幾度も點て替る事定法の如くす

一普通花月座敷は八疊敷なり客方の座席は四疊半にして其餘疊は爐前へ行く通ひ疊とす



一折居に札を人数丈け入れ置き松の繪を上  
爲し折居に入れ置く月花の札を除く外は皆  
空札を入れ置く可し

### 花月席の次第

一別待合の時は扇子は別待合へ置いて席へ入る  
なり  
一客は待合溜りの間に控へ居るべし  
一主人迎へに出て迎口に座し襖を開き待合溜  
りの間へ出て主客惣禮し主人襖をたて少し

手掛り程開け置き勝手へ入り折居を前に置  
き控へ居る客方各々服紗を腰に附け上客よ  
り次禮して座を立ち襖を開き茶席へ入る但  
し通ひ疊を通り四疊半に着座す末客迄同斷  
末客襖を閉め置き座に着くと亭主折居を取  
り上げ前向ふに廻し立て上客の前に持ち行  
き疊の縁外真中に置き勝手へ入る但し總て  
出入は踏込疊の真中の隅より歩むべし上客  
の前より立ち歸る時右の膝を開き左の膝を  
寄せて左の膝より立ち退き勝手へ入る夫よ



り道具持ち出て置き付け建水持ち出だし踏  
 込疊の假座に置き客附の膝より立ち三足後  
 へ下り假座へ着く上客次禮して折居を取り  
 上げ札を取り出して前に置き折居を次へ縁  
 内疊の目三つ目の處へ送る夫より次禮にて  
 主人迄札を取り主人札を右の手の中へ握り  
 込み右手にて折居を下に置く是れと同時に  
 一統皆札を見て花を名乗る花の當りたる人  
 は札を上に向け下に置く主人折居を取り札  
 を入れ上座へ繰り上げ送る花の人は替札を

取る可し如此して順次に折居を上客へ送る  
 上客は折居を縁外五つ目の處へ止め置花の  
 人は折居の止るを見て替札を持ち立ち假座  
 に着き建水を持ち立つと同時に主人迄一統  
 座席の繰り上を爲す花の人は居前に進み替  
 札を建水の向ふへ置き棚在る時は棚の上に  
 置く柄杓を引き惣禮す夫より常の通り爲し  
 茶碗を茶巾にて拭ひ茶巾を取り出し茶杓へ  
 手を掛けるときに上客は折居を取り札を前  
 の如く取りて廻す末座の人は折居を縁内五



つ目の處へ止め置く爐前の人茶を點て茶碗  
を出す此時客方は一統に札を見て月の札を  
取りたる人より月と名乗り又花の札を取り  
たる人は花と名乗る何れも札を元の如く前  
に置く爐前の人松と名乗りて札を持ち點座  
を立ちて通ひ疊より假の座に着座す點前の  
人松と名乗りたる時は末座の人は折居を取  
り假座へ廻す假座の人は折居を取り札を入  
れて末座へ廻す此の如く順次札を入れて上  
座へ繰り上げる花の人は前と同じく替札を

取り座を立ちて點前へ行く月の人は茶碗を  
取り茶を飲み茶碗を戻す假座の人は花の人  
後ろを通りし時直ちに立て其人の座し居り  
し跡へ入る以下何度にても前の通なり而し  
て四服點じたる後には上客の座に着座し居  
る人は札を取り廻す時に折居に角を掛けて  
廻す次客よりも一統角を掛けて廻すべし末  
客の人爐前の處へ折居を持ち行き角の儘置  
くべし茶碗出でたる時常の如く一同札を見  
月のみを名乗り直ちに茶を呑む爐前の人



札を取り客に正面して札を下に置き折居を  
取り札を入れ折居を元の處へ返し居前に向  
く末客は折居を取り前の如く札を入れ又角  
かけて順次上客へ返す上客は折居を常の所  
へ納め置く月の人は折居の納まるを見て茶  
碗かへす可し爐前の人は茶碗を取入れ惣禮  
を爲し客方銘々に元座へ座替へを爲す其の  
時下る人は下る方の膝を立て下る方の足よ  
り三足後ろへ引き壁の方を歩む上る人は右  
の膝を立て右の足より二足後ろへ引き生側

を通る爐前の人始めに次客なれば次客の座  
をあけ置なり爐前の人には茶碗を湯にてすゝ  
ぎ常の通り仕舞ひ建水を持ち立ちて三足後  
ろへ下り假座に着き建水を假座に置き立て  
右足より三足下りて我座へ返る主人假座を  
立ちて建水を勝手へ引き両器引く上客は折  
居を返し主人出て折居の方を向き座し主客  
總禮主人折居を持ち水指の方に向ひ折居を  
水指の蓋の上に載せ勝手へ引き上客立ち襖  
を開け待合溜りの間へ順に引退き末客襖閉



め切り列座して居る主人送に出て主客総禮  
す主人引き退き客方各々服紗を取り懐中爲  
し終る但本溜の間の時は下座より先に入べ  
し

一待合溜りの間は亭主迎ひ附に出たる方を上  
客と定むべし懐中より服紗を取り出し腰に  
附け扇子を抜き後に置く但し縁の上に置く  
べし茶席は扇子持ち入るに及ばず  
一別待合に非ずして八疊の席を用ひたる節に  
亭主の迎付を終りて客は次禮して四疊半に

詰め終りに亭主水指を持ち立つ時に客は共  
に立ちて元の八疊に座す

一上客折居を廻すとき初めは次禮爲し二遍目  
より次禮することなし

一上客折居止め置は縁外五つ目なり

一末客折居止め置は縁内五つ目なり

一折居廻すは縁内三つ目なり

一客札を取りたる時は其札は縁内一つ目へ置  
くなり

一折居を取扱ふ手は折居右に有る時は右の手



にて取り左に有るときは左の手にて取るなり右にて取りたる時は左手にて置き左にて取りたる時は右手にて置くべし

一折居を末座より假座へ出す時は假座の疊の縁横に在る故此縁より三つ目へ右の手にて差出すべし

一假座より折居を末座へ返すは右の手にて末座の左の方膝先傍縁より三つ目へ出す

一折居止め置くは(次客にても)上にて止る時は縁外五つ目下にて止る時は縁内五つ目なり

一初め花の人點前へ行たる時はそれより以下の客方順次座席の繰り上げを同時に爲す事  
一若し役札の替札を取らざる節に爐前の人月に當りたる時は假座へ戻り茶碗を取り茶を飲む事花に當りたる時は其儘居前へ直り點前を爲すべし

一花月付物有る時は茶は三服に限るなり

一點前の人茶杓へ手を掛けたる時は上客必ず折居を取り札を出し廻す可し

一折居を角掛け廻すは御仕舞と云ふしらせに



次客へ出すものなれば末客も爐前へ持ち行き角の儘前向ふにして出す可し爐前の人札を入れて又角掛けて前向ふに廻して元の處へ置く末客是を取り我札を入れ上へ繰上げ

一 終りに亭主仕舞なる時は常の如く构建水を引く可し

一 臺子其外棚の類何れも定法の通り用ひて苦しからず此節にて水次を持出し定座に置き折居に正面し總禮を爲し折居を懷中して水

指の方に向ひ水を次ぐ可し

一 點前の人松を名乗らざる時は末客は折居を直ちに上座へ廻す可し

一 折居を箱にする事 末座に居て月花の役札を取たる時替札を取り置かんと思ふも爐前の人も役札にて替札入かへたるか又は始より除き居るかにて取り替べき無役の札折居になき時は折居を開き箱にして真直にして上座へ出す上座の人我取りたる札無役なれば札の裏を上にして折居へ入れ又末座の人



へ箱にしたる儘にて出す末座の人折札を取り無役の札と我取りたる役札と取り替へ役札の松の畫の有る方を上にして折居へ入れ置き上へ繰上げるなり但し折居は帖みて繰上る然して我取たる札月なれば茶を飲み花なれば點前に行く事

一茶を飲み終らざる内折居廻り來らば茶碗を前の縁外へ置き折居を取り札を入れ上へ送り置て茶を飲み終るべし上客月に當り茶を飲み居る時に折居返り來らば茶を飲み切り

て茶碗を爐傍へ返し折居を取り札を入れ定座へ納め置くなり

一爐前の人始めに替札を取り居らずして再び月に當りたる時は札を折居へ入れ返し其儘座を立ち假座へ着き茶碗を取り茶を飲むべし

一前と同じく替札を取らずして爐前に居るとき折居角掛け來る時は月に當らば月と名乗りて札を折居へ入れ元の所へ返し置き其の座の儘にて茶碗を取り茶を飲み上客の方折



道  
千宗室  
共編

居納るを見て茶碗を持ち爐前に居直り茶碗  
下に置き主客總禮して仕舞を致すなり

### 風爐花月席左の如し

一作法爐風爐共に異なる處なし只茶碗及び折  
居を出す所に相違ある事左の如し  
一點前より茶碗出す所は客前の疊真中の通り  
を茶碗の向ふに當て上客の方の縁より茶碗  
丈けあけて出すなり  
一點前折居出す所は客前の疊茶碗を出す所と

並べて間中の間に恰好を見合せ置くべし  
一亭主両器を引き折居を主人へ返す時客前の  
疊即ち茶碗を出す疊道具疊の方を折居だけ  
あけて返す主人出てゝ其前に座し主客總禮  
を爲す事前に變りなし  
一風爐花月は本仕舞に爲す可し

### 炭付花月式

一始め常の如くに爲し主人折居持出上客の前  
に置き炭斗灰器等常法の如く持出し灰器を

茶  
千宗室  
共編  
二



假座に假置きし立ちて座に着き上客へ一禮  
す上客次禮なして札を取る事常の如く主人  
迄同様一統札を見て月花と名乗り兩人とも  
替札を取る方よろしく月の札に當りたる人  
は炭手前をなす、作法は通例の如くにして  
替る事無し

一くり上の節には主人は其儘にて他の者は皆  
繰り上がる可し香合拜見はなさざる方宜し  
炭つぎ終り灰器持ち假座に置き末座へ返る  
主人立て灰器炭斗を引き直に水指又は両器  
等持出る事例之通にして座につきたるとき  
花の人立て點前にゆく事例之通なり此外替  
り無し三服目にて角掛る方宜し其他普通花  
月に通ずべし

濃茶付花月式

一始め棚の前又は水指の前に茶入を莊り置き  
主人迎付に出る事普通花月に替る事なし  
一客各々座に着きたる時主人常の如く折居持  
出し茶碗建水等運ひ座に付き上客へ一禮す



上客次禮して札を取り主人迄廻す事炭付花  
月の如くなす可し

一一統に札を見て月花を名乗る月花とも替札  
を取る可し

一折居納まりたる後月の人立て假座に行き建  
水持ち點前に行き札を棚又は建水の向ふへ  
假置す柄杓を引き總禮順次四疊半濃茶の如  
く茶を點じ出置き爐なれば中仕舞をなして  
札を持たずして假座に戻り此時上客茶碗取  
り込み例之如く總禮を爲して茶を呑み廻す

末客まで同様假座の人茶呑み切るとき上客  
より茶碗拜見の所望あらば受て茶碗を上客  
へ持ち行き直に點前へ戻り中仕舞のとき水  
指の上の茶巾を釜の蓋に載せ水指の蓋を明  
け水をさし扣へ居る客より茶碗戻りたらば  
總禮し茶碗をすゝぎて建水へ捨て茶碗向ふ  
へ寄せ置き札を持ち立ちて假座へ戻り花之  
人立ちて手前へ行き札を棚へ載せ薄器をお  
ろし茶碗前に置き拭ひて建水の向ふへ假置  
し再び茶碗あらひて薄茶を點ずる事常法之



通り也

一上客は茶杓に手のかゝりたる時札をとり次へ廻し通例の如く月花と名乗り月に當りし人は茶を呑み花に當りし人は點前に行く事通常花月に替る事無し二度目の花に當りし人は手前に行き茶杓を取り水指の上のせ茶入を茶棚の真中又は建水の向ふに置き薄茶器を左手にて茶入の後に置き次に茶杓を棗の上に載せ茶碗取り込み茶を點つる事例の如くに爲す折居は先づ三度にて角掛ける

方宜し終りに三器の拜見所望爲す可し然る時は直に棚の上の茶入を下ろし例之如く拭ひ出す可し

一亭主建水を勝手運び去れば客は三器取り込拜見して末客より戻す道具戻し終れば上客より折居を茶入の左の方へ返し置く主人出て總禮し折居を懐中して三器を常の如く引き送り禮を爲す以下すべて薄茶花月と替る事無し若し上客仕舞に當りたるときは三器は次客より所望なす可し其節には三器



は矢張り所望をなしたる人より取り込みて  
上客へ廻すべし

### 花付花月の式

一主人次の間に折居、花臺、両器、建水、こ  
しらへ置き迎ひ付に出ること例の通り折居  
を前に置き勝手口に控へ客の席入を待居る  
客の席入は八疊跡付に座す此式に限り末客  
まで同様なり  
主人折居持出上客の前に置勝手へ入り臺を

持出花筒の脇に置付其より假座へ着きて上  
客へ一禮をなし上客次禮を爲して順次に末  
客まで札を取り主人も共に札をとり月花と  
名乗り折居へ札を入れて常の如く上客へも  
どす尤も月花とも替札をとる方宜し月に當  
りたる人は立て花器の前に進み左法の通り  
花をいける主人水をと所望す受て水をさし  
小刀をなほし定座にもどる  
主人立て花筒に向ひ拜見して花臺を持ち勝  
手に退き直に両器を持出し置付け建水持出



して假り座に着く花の人は立て手前にゆき  
茶を點る事例の通り爲す

客方は主人花臺を持勝手に入たる時に四疊  
半へ進み入るべし

仕舞に両器を引き折居を取に出る時主人よ  
り花を生たる人へ御花其儘にと挨拶爲し置

く方よろし其他常の如くに替りなし

花生たる人主人より花其儘にと述べたる時  
は其儘に爲し置き若し主人より其挨拶なき  
ときは花をぬきとりて花入のこくち又はか

みを敷きてのせ置くべし其他は普通花月の  
通りなり始め上客四疊半へ進むときは折  
居を持ち進むべし

### 香花月之式

一始八疊に座し居る主迎付に出て一禮をなし  
客方惣禮し主勝手へ入り香盆に折居を載せ  
控居る客各々帛紗をさげ次禮をなして四疊  
半に進み入る末客まで同様主香盆をもち出  
て上客の前に持行き假座にもどり主人より



上客に一禮なすべし上客受禮をなし次禮して折居をとり廻すこと常の通末客まで同様各札を見て月花と名乗り折居は常の如く上客へ戻す月花とは替札をとり月の人とは且座の如く香を焚き香爐を次客へ廻す次客は三客へ次禮して香をきく月的人是香爐を次客へ廻し置續て香包を廻す主人まで同様主人きくときは月の人へ一禮なして聞べし主人聞終りて月の人の前に持ち行き元座に歸る月の人香爐を取上げ香をきくて香爐盆に置

く此時主人より香其儘にと云ふ月的人是受禮なして盆を前向に直し置く主人は香盆を床又は床脇等へ莊り置き勝手へ入り茶わん等持出し例の如置付け建水假座に置立て座に着く花の人は替札を持點茶に行く事等以下通例花月と替る事なし終りに主人建水両器并に折居も引直ちに文臺を持出し假座に着き記録を認め文臺の儘上客の前に持ち行く上客は次禮をなして記録へ和歌其外好の句を各認め順次主人へまはず主人も同じく



認めて再び上客へ持行き元の座に歸る上客は次客へ次禮して記録を拜見なし順次末客迄廻す主人も續て拜見をなす可し但し主人上客へ記録を拜見の時持行時に折居を記録の上に置き持行く可し

上客記録の拜見に續いて折居の札を取り順次に廻し置主人記録の拜見を終れば一同に札を見て月をなると主人は折居へ札を入れ元の如く上客へ送り戻す主人は記録を巻いて折居の納まりたる後に月の人の前に持行き

記録を渡す月の人は之れを受け頂きて懷中なす主人は文臺を持ち勝手へ入り又出て上客の前に行き總禮をなし折居を引き又出て送禮をなすべし

但し主人文臺持出る前に客方は帛紗を懷中なす可し折居其儘預りたる時は折居を持ち八疊へ下る可し以下常の花月と替る事なし



### 結び帛紗花月の式

一主人迎付に出て上客へ結帛紗の由をつげ置折居を控へ客の席に入るを待居る客は帛紗をさげずに席に入る順次常の花月の通り替り無し主人は右の手のひらに結帛紗を載せ左に建水を持ち假座に座し建水の右脇に結び帛紗を置き立ちて主人座に着く上客は次客へ禮を爲して札を取り廻すこと例の通り花の人替札をとり建水の處に行き帛紗をひ

ろげ上下を取りさばき常の如く腰につけ建水を持ちて手前に行く事例の通り茶杓を拭ひて後に帛紗を建水の向ふに置く可し  
 一若し此時主人ならば服紗を建水の後ろへ置く方宜し仕舞の節にも客仕舞なれば茶碗に茶筌入れ右手にて帛紗取りさばきて茶杓を取り拭ひ茶杓を茶碗に掛け置き帛紗をはらひ腰につける主人仕舞なれば常の如くにして替る事無し  
 一客仕舞の節仕舞終りて建水を持ち立ちて假



座に着き建水を下へ置帛紗をさばき直して  
建水の右横に始めの處ろに置く可し  
一此他替り無し普通花月に順じて宜し

### 爐通ひ花月式

一通ひ付花月座敷は十二疊半敷なり客方の着  
座は八疊に座すこと其の餘の疊は爐前へ行  
く通ひ疊なり此の疊にて主客八人勤める事  
なり

一上客より順次札を取りて廻す札は疊目二つ

目の處に置き折居は疊の縁より向五つ目を  
次へ廻し折居を通ひの者に渡す

一通ひの者折居を爐前へ取次ぎ置折居は主客  
共に両手にて扱ふなり

一點前より茶碗を出す處は普通點前に茶碗を  
出す處なり

一上客折居返すは前の疊の縁り外に折居の寸  
法だけ明けて真中に置可し

一客待合溜りの間に着座し其他茶席萬端の作  
法は常の花月と替る事なし茶碗を取り引き



折居の渡し方札の置き様等少し異なる事あり

一待合の間へ主人迎付に出て客順次席に着座す亭主出て假座に着く然る後通ひの者は折居を持ち出て上客の前に疊の縁外七つ目の處に置き立て水指茶入茶碗を莊り付け建水を持出し(▽△印)に置き立て勝手へ入り勝手口に控居る上客次禮して折居を取り正面の疊の縁より向にて札を取り札は真中二つ目に置き折居を次へ廻す主人迄同斷主人折居を

開き札を取り見る客方も主人と同時に札を見て花の札を取たる人は花と名乗り主人より札を折居に入れ順次に上客迄折居を返す上客は折居を向へ納めると花の札を取りたる人は座を立ち通ひ疊を歩み行きて建水を持ち爐前へ行く此時客方一同主人迄座をくり上ぐ爐前の人柄杓を引き總禮を爲す事常の如し此時通ひの者は立ちて茶席へ入る但し踏込疊の角より通ひ座に着く爐前の人常の通り順次茶筌投じをなし湯を捨て茶巾を



取る時上客は折居を取り札を取り次へ廻す  
此時通ひの者は足を爪立て居る可し順次札  
を取りて末座に至れば末客は折居を通ひの  
者へ渡す(□大)印也通ひの者は両手にて折居  
を取り爐前(□折)印へ出す爐前の人茶を點て  
茶碗を出して折居を取り札を取り主客同時  
に札を見て月花と名乗る此時通ひの者は直  
ちに茶碗を取て月の當りたる人の所へ持ち  
行き疊の縁外に置き通ひの座へ歸る爐前の  
人折居を(□折)印へ戻し置く通ひの者は両手

にて折居を取り(□イ)印末客へ返す月の人茶  
を飲み茶碗を疊の縁外へ出すと通ひ者立ち  
て茶碗を取り爐前へ持ち行き戻し通ひ座に  
歸る以下幾度にても之れに同じ爐前へ行き  
たる人替札を取り居たる時には末客は折居  
を留め置く點前の人茶を點じ出せば前同様  
に名乗る通ひの者茶碗を取り持行月の人茶  
を呑み縁外へ出す通ひの者茶碗を戻すこと  
前に述べたる如し  
一折居角掛りたる時末座へ爐前より折居を取



次事有る時は通ひの者は茶碗を運び早々通ひ座に歸り折居を取次ぐ可し  
一折居角掛りて仕舞の時は茶碗を爐前へ戻し通ひの者は座に歸り居て主客總禮の濟みたる後通ひの者は同じく禮をなして勝手口に退き控へ居る爐前の人手前濟て建水を持ち五足後すさりして建水を假座に置き本座へ歸ると直ちに通ひの者出て建水を引き夫より兩器水指を引き終れば上客の前に行き一同總禮して折居を両手にて持ち勝手へ入る

此時主人續て後より勝手へ入る客一同溜りへ下る主人送禮に出て總禮爲し主人勝手へ入る  
一亭出折居持出て茶道具を通ひの者に運ばせても宜し  
一通ひの者は茶碗を客の前へ持ち行き歸りて通ひ座に着くとき又は爐前へ茶碗を持ち行く歸るときも共に踏込疊まで歸り其隅より通ひの座に着く可し  
一上客より折居廻り來りたる時に我札を取り



後折居の中に札無き時は疊の縁内七つ目の  
處へ止め置く可し

一折居は大折居を用ひ常に疊の縁外五つ目を  
廻し折居を止め置く時には上座にては疊の  
縁外七つ目に止め置き下座にては疊の縁内  
七つ目に止め置く可し

一大折居は總て取上げず疊の上にて札の出し  
入れを爲し又折居の取扱ひは兩手にて爲す  
ものとす

一通ひの者は折居を取次ぎ又は茶碗を客へ取

次ぎ其茶碗を點前へ返す迄の間は始終爪立  
てゝ控へ居る

一主客并に通ひ者共十人迄は苦しからずと雖  
とも先づ八人位を宜しとす

一座變り等は普通花月の如く爲す可し

### 四疊半花月式

一通常花月と替る事なし始めより四疊半の儘  
服紗をさげり主人折居を持出る事常の如く  
いたす道具運付け主人假座に着く上客札を



取り次へ廻す事常の如し花の人は替札を持  
ち客の前を通りて點前へ行主人は花の人の  
後へ立ち行き座す以下替る事なし仕舞座  
替りは上客并に主人の二人のみ爲し其外は  
其儘にて差支へなし例へば二客が三客に居  
るとも差支なし其他常の花月に順す可し  
一座變り其他總て前立ちとす

### 雪月花之式

一雪月花は立々齋好の式にして花月によく似

たるものなり但し雪の人菓子を食ひ月の人  
茶を呑み花の人點前するを趣意とす

一雪月花は大廣間よし十二帖半など尤よし但  
し八疊にて行ふこともあり  
一人數は七人以上十三人迄はつとむることを  
得

一雪月花にて用意の品は花月に同じ但し折居  
は少し花月のより大なり札も少し變れり即  
ち雪月花など文字にてあらはせるなり而し  
て一より十迄の札あり、さて此他煙草盆と



菓子器は用意し置くべし菓子器の上に折居のせ置くべし

一客待合にありて主人の迎禮客の席入など花月に同じ主人先づ煙草盆持出て次に菓子器持出て皆上客の前に置く二度とも主人は上客へ一禮すべし上客は煙草盆も菓子器も脇へ片よせ置くべし、さて主人は茶具をはこび建水假座に置き主人の座に着く上客より次禮して折居を廻し札を取る札は縁内正面二ツ目に置く（八疊敷にて前通ひの時は右

膝の前に置く折居は縁内五ツ目廻しにて末客は七ツ目にて止めること也、さて最初は花のみ名乗る花の人替札取る事花月の通りなり折居上客へ戻すべし上客は折居の置場所を疊の目により何服目々々と勘定すべし、さて花の人點前に立て後凡て花月の通りなり、要するに十二疊半にて行ふ時は八疊敷花月の通りに思ふべし又八疊敷にて行ふ時は四疊半花月の近りに思ふべし、花月とちがふ所は折居廻す時也即ち花の人が茶



巾取りたる時に廻すなり、雪月花三人とも  
換札取るべし、松名乗る事花月に同じ、箱  
のこと角かけることも花月に同じ雪の當り  
たる人へ菓子器をまはすこと忘るべからず  
一雪月花にては煙草盆を一處に止め置くこと  
宜しからず閑話ありても苦しからず  
一雪月花三ツとも當りたる人は松と名乗らぬ  
を宜しとす  
一終りに道具引くこと送り札のこと皆花月の  
通りなり

千宗室

### 茶カブキの式

一茶カブキに用ゆる茶は宇治の茶師家々より  
濃茶を取集め三種或は五種にて一口づゝ  
分け十種香の如く札を折記録を認めて銘々  
思入の札を記す事なり  
一宇治茶師數多あれ共著名なる物は  
茶師御物人之内  
上林春松 尾崎有菴 星野宗順  
御袋茶師之内

茶  
千立室 共編



千宗室 共編

八島桂菴 上林道菴 竹田紹旦

御通り内

竹田紹清 河村宗順 喜田隆玄 菱田宗見

満田宗恵 祝甚三郎

一座敷上座の方に其節用ふる茶師の苗字を書  
付看判板にして掛け置但し墨塗板に胡粉に  
て書く圖の如し

一長盆に棗を並置き試茶は棗の蓋の上に茶師  
苗字を胡粉にて書き本茶は蓋の裏に書なり  
棗一つに茶一種づゝ入れ置くべし圖の如し

一名乗紙認め様は茶三種の時は三切の札紙を  
一人分として下に其人の名を認め上に茶師  
の苗字を書付或は一の茶竹田二の茶尾崎三  
の茶祝として次第に認るなり

一右人数程認め重て上の角に穴を明け置き其  
處を紙撚にて綴じ置なり

一折居拵様白檀紙にて表に切箔寸法は豎横五  
寸四方なり數五つ折にて上の真中に一二三  
四五と書き付く茶三種の時は四五の折居は  
用ひず

茶 千支室 共編



茶カブキ席の次第

- 一 爐の時は必ず中仕舞なき事
- 一 客各待合に着座の事廻り花の通り客扇子を  
持ち茶席へ入る可し
- 一 主人茶席の棚の前に座し長盆に掛け有る服  
紗を取り兩手の中指を入れ服紗の真中より  
取り上げ二つに折りたるを指をぬき又一つ  
折り又豎にして豎へ三つに上へ折疊て疊の  
右の方に置き本茶を入れ有る棗を左右に持  
ち取りて替へ交ぜ合せ置き試み茶入りたる

棗一つ下ろし水指の前に莊り付右手に帛紗  
を持勝手へ引迎に出る事又は帛紗を持たる  
儘鍵疊へ座し迎ひ付ても宜し此時は客方八  
疊に居る時なり服紗は左の膝頭に置き一禮  
す

- 一 客方受禮し又次禮して順次茶席へ入る
- 一 亭主折居の三枚上に名乗紙を載せ兩手にて  
持出て上客の前へ座し置き付る若し又風で  
もあらば名乗紙折居にはさみ置きて宜し
- 一 上客折居名乗紙共右の方へ置く但し疊目七



つ明けて置可し

一主人茶碗持出莊り付次に建水持出て爐前に座し常濃茶手前の通り柄杓を引き總禮すべし

一此時筆者は文臺の上に奉書一折其上に硯箱を乗せ持ち出て定座に付く但し文臺無き時は奉書硯箱前に置く

一初めの試の棗を拭ふ時は蓋の文字をよけて豎にりの字に拭ひ茶を點て出す事常の通り

一上客立出茶碗を取り元の座に返り總禮して

茶を飲み次へ廻す事常式の通り末客より茶碗を主人へ返す但し茶碗拜見は無し

一主人は客の茶を一口飲むをきし茶杓を取り水指の上か或は棚の上へ上げ置棗を右にて盆中へ上げ其手にて一の棗を取り下ろし左にて茶筌を置合せ右にて茶杓取り棗の上に乗せ置茶碗のかへるを待居る二の棗より拭ふことなし

一客方より茶碗歸らば取入れ總禮す前の如くに茶を點じ出す上客取込總禮はなしにて次



禮送禮のみにて茶碗を次へ廻す

一 亭主茶碗かへらば取りすゝぎ茶碗拭ひ巾をしほり疊み直して二の茶を點て出す

一 上客次禮して茶を飲み次へ廻し置きて上客亭主へ御本茶を乞ふなり

一 主人受禮して茶筌建水の向へ假置し茶杓を水指へあげ置棗を長盆に乗せ棚に向ひ兩手にて持前へ取り前向へ廻し又棚へあげ置夫より本茶の棗を取り居前へ戻り棗を置き其上に茶杓をのせ置き茶筌を棗と置き合せて

茶碗戻るを待居る

一 茶杓棗に乗せ茶筌を置合せるときに筆者は奉書を前へ廣げ硯箱の蓋を取り墨をすり記録并に名乗月日等を認む可し

一 客此時次禮して名乗紙を一枚取り次客へ送る次客何れも名乗紙を一枚づゝ取る末客迄同斷

但し名乗紙を置く處は疊の目三つ明けて右の方に服紗か扇子にてはさみ置事  
一 末客の人主人莊り付終るを見て茶碗を爐脇



へ戻し置く事

- 一 亭主茶碗を取入れ湯を汲み二度すゝぎて巾にて拭ひ本茶點出す事定法の如くなすべし
- 一 上客立ち出て茶碗を取り座に歸へり總禮して茶を飲み廻して名乗紙を取りて銘々思當りたる通り入れ事但し名乗紙は四つに折りてひねり折居へ入れ次へ廻す
- 一本茶初服は總禮後は次禮なり
- 一 末客主人へ茶碗を返し我札を折居へ入れ筆者の處へ持ち行き記録の向ふへ置き本座に

返る

- 一 筆者折居を取り札を出し改めて記録へ認め札を又元の如く折居へ入置折居を硯箱の蓋の上ののせ置なり但し末客より二度目には折居二つ一處に持ち來り置付ると筆者は此折居を順次に取り認め前の通り硯箱の蓋の上に重ね置くなり
- 一 亭主次の茶を點て出す事三種共同し客茶を飲み札を札居へ入る事始めに同じ客二種目の茶を呑み札を入置き札居を次へ廻し直に



- 三種目の札を取り札居へ入れ廻すなり
- 一末客二種目の茶を飲み茶碗主人へ戻し其札を入れ又三種目の札も入れて二つながら一度に筆者の處へ持行
- 一亭主三種目の茶を點て出す
- 一客三種目の茶を吞廻し末座より茶碗を亭主へ戻す
- 一亭主茶碗取入れ置惣禮して仕舞事定法の通り也茶碗建水の先へ假に置き棗を長盆へおせ置き建水を持退き茶碗を引水指へ水を次

- き又出て棚の前へ座し長盆を両手にて持筆者の前へ座して本茶の棗の蓋を始めより一づづ取り記録の向へ並へる事
- 一筆者記録に書留め閉茶と見合て後記録へ點を掛る事
- 一主人棗の蓋をして長盆を両手にて持勝手に引く又出て筆者の前へ向ひ着座する
- 一長盆引きたる跡四方棚など上明き棚に成りたれば記録を筆者の前へ取に出づる前に棗一つ持出して棚へ莊り置きて宜し又は棚の



上空きたる儘にては苦しからず

一 筆者記録の高點を主人へ告げ記録を巻て主人へ渡す此の卷方渡し方は筆にて記しおたし

一 主人記録を受取て高點の客人の前に持行き渡し跡へ一膝退き高點の人へ一禮を爲して退く高點の人は巻を戴くなり記録は巻紙とも謂なり

一 高點の人なき時は上客へ持行なり  
一 筆者も硯箱奉書を持ち勝手へ退く但し主人

より先へ入る事

一 客方何れも待合へ退く事

一 主人待合へ送り禮に行く主客總禮し主人は勝手へ退く記録認め方左の如し

一 名乗紙は本茶の節茶筌棗に置合す時次禮して取廻す

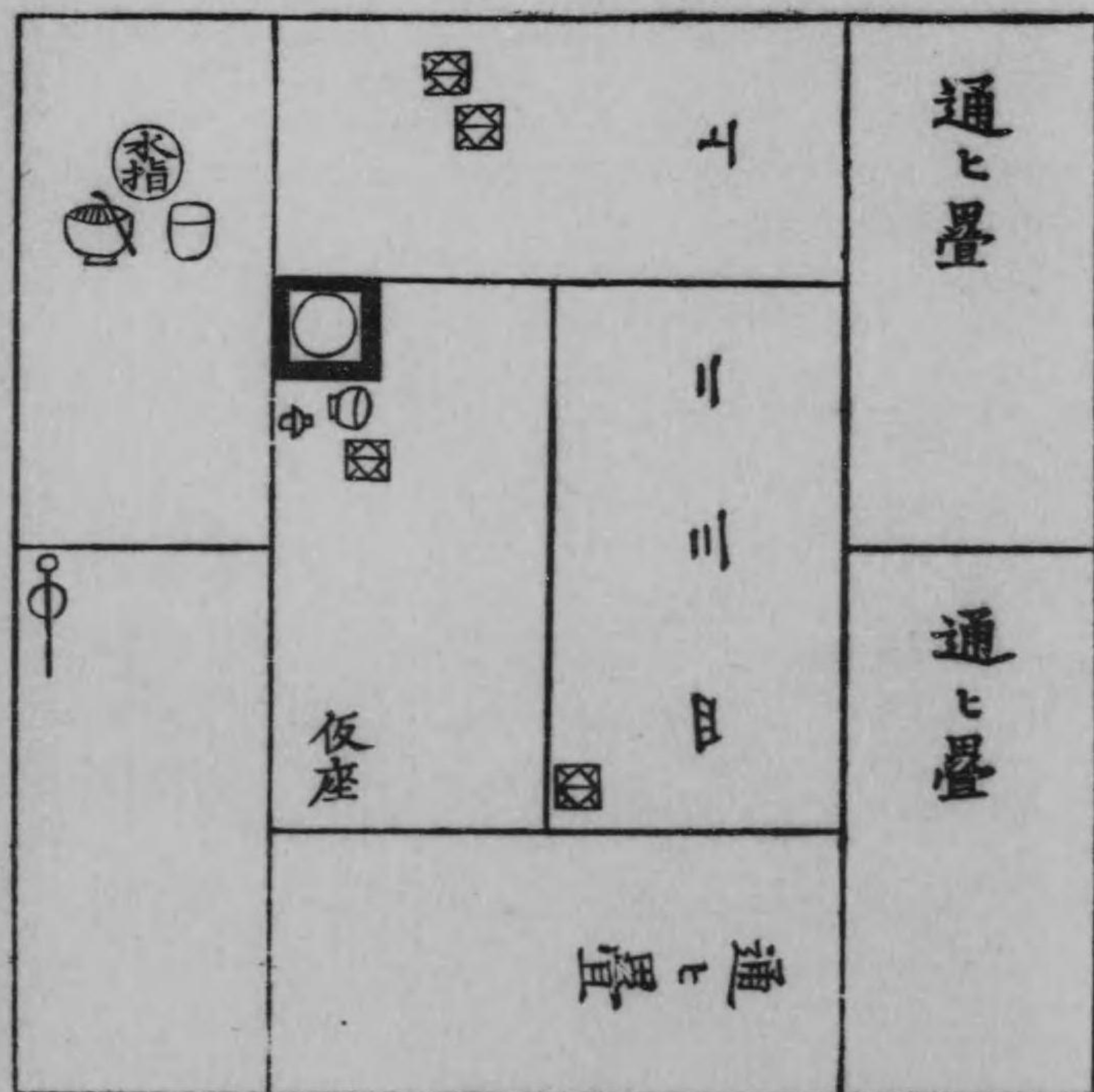
一 仕舞の挨拶あるべきこと

一 亭主残らす引又出て棗の乗りたる盆を引き筆者の處へ持行見せ直に勝手へ引

一 待合口多分無き方宜し



圖の間のり溜に并席茶 式月花



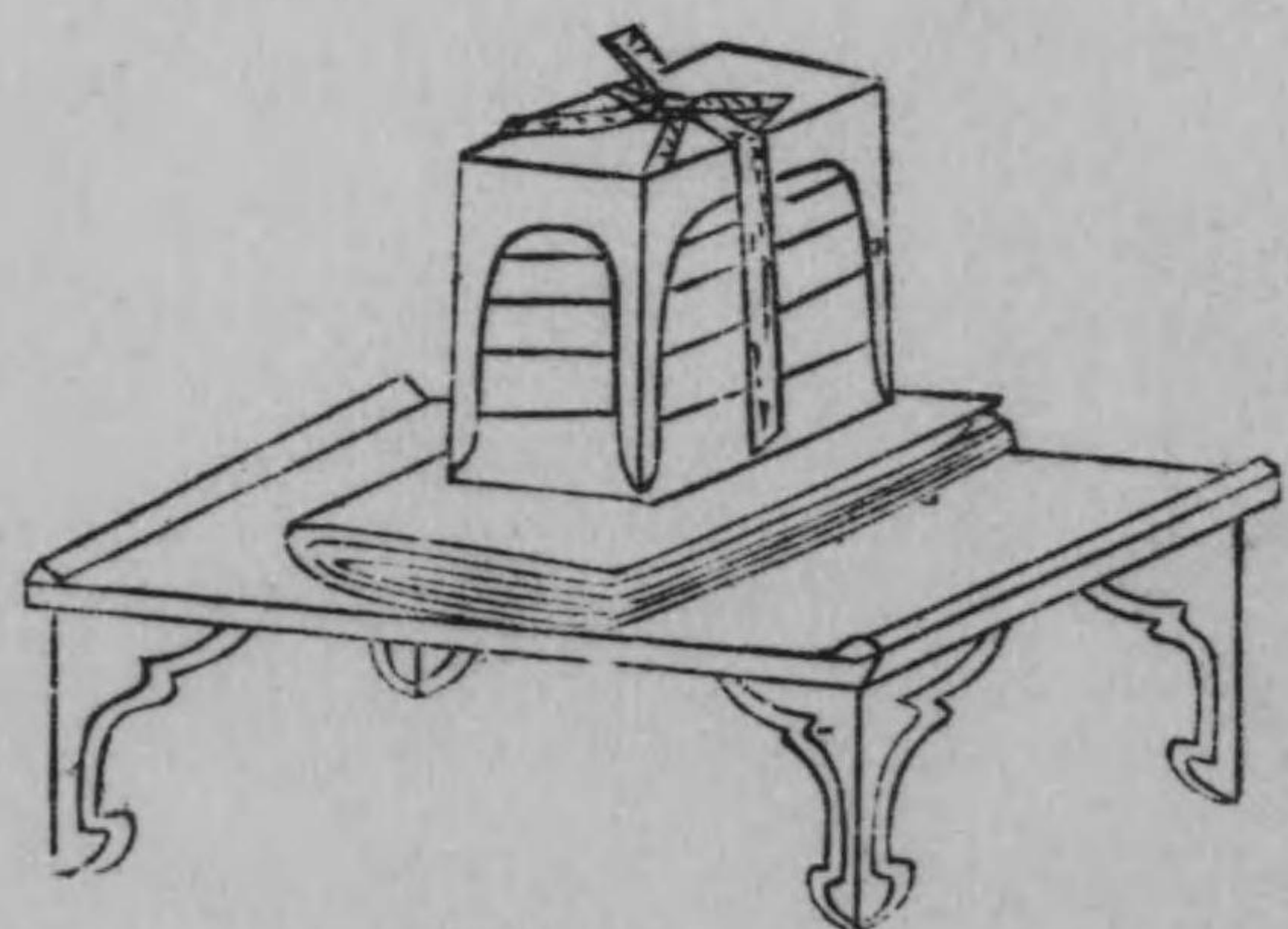
千文室

千宗室



茶  
の  
り  
の  
ま  
ま  
や  
五  
之  
巻  
千  
之  
室  
共  
編  
矣

香附花月重硯之圖



茶  
の  
り  
の  
ま  
ま  
や  
五  
之  
巻  
千  
宗  
室  
共  
編  
矣

茶通口	客入口
四	上



通のたきやまの巻  
千宗室

香附花月記録認め方

香花月記

一 何某  
 二 何某  
 三 何某  
 香 何某  
 二 何某  
 主 何某  
 何年何月何日  
 於何々菴  
 出香何某  
 香銘  
 何々

茶錄  
通のたきやまの巻  
正之巻

<p>色開に開か 二開に開か 三開に開か</p>	<p>通 録</p>
<p>□</p>	<p>○</p>
<p>□</p>	<p>○</p>
<p>□</p>	<p>○</p>
<p>外 主</p>	<p>主</p>

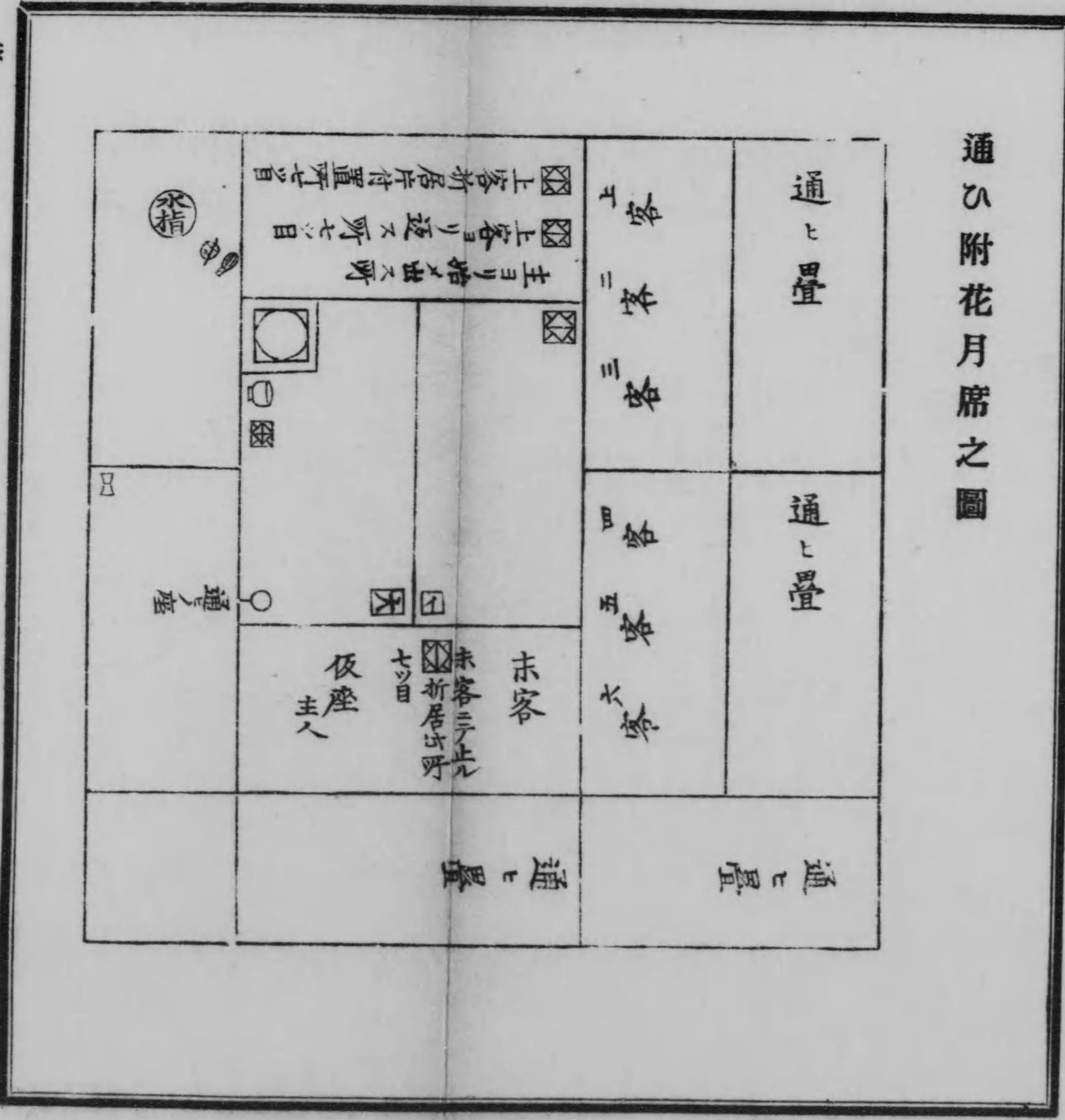
通



花月記録認め方

香銘 何々  
 於何々菴 出香何某  
 何年何月何日  
 主何某  
 香何某  
 二何某  
 一何某

通ひ附花月席之圖



茶道  
 うらのとまや五之卷





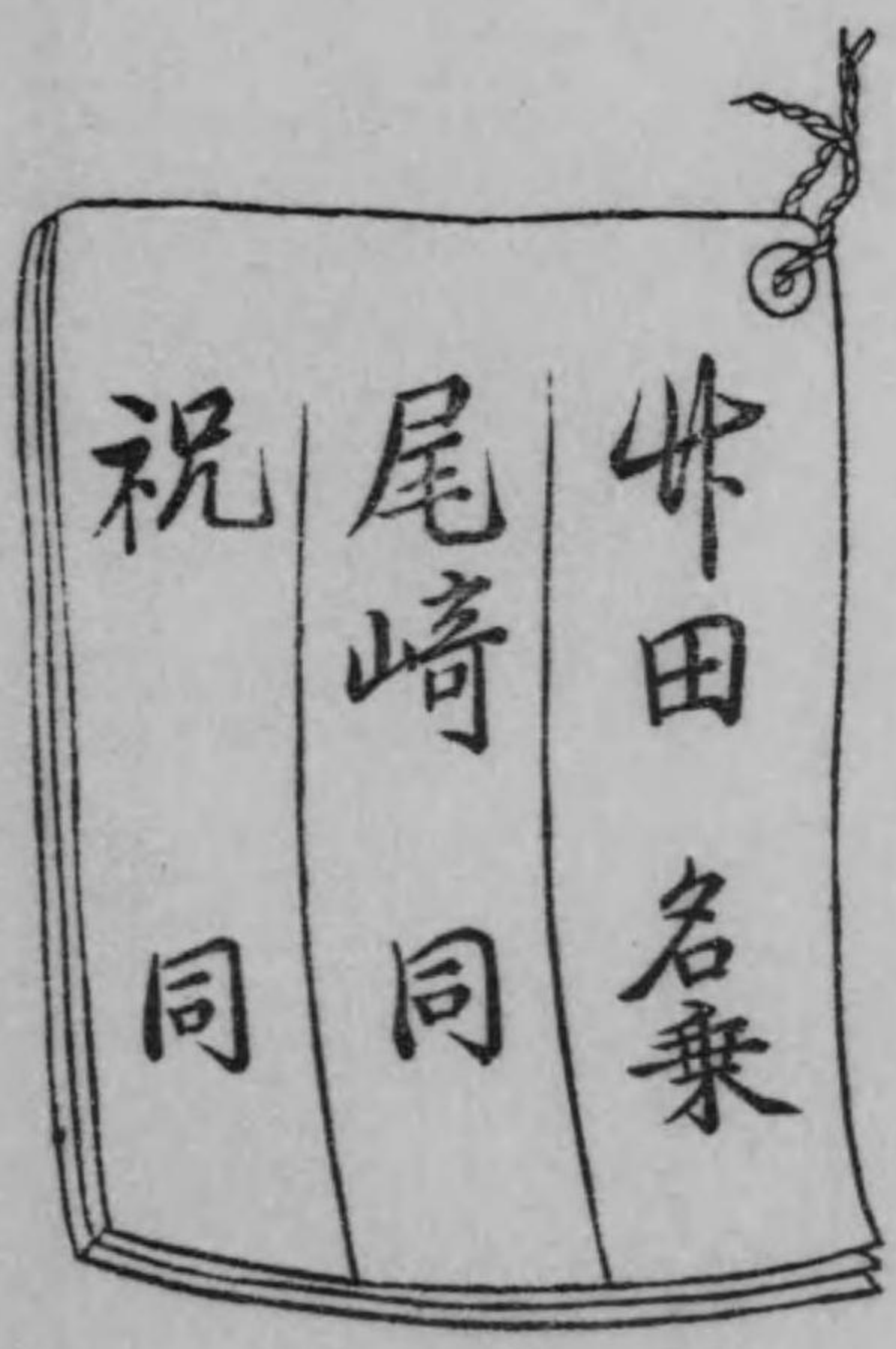


道...の...  
千宗室共編

茶カブキ用看判板之圖

□	外田	上林	喜
	初昔	後昔	後の森

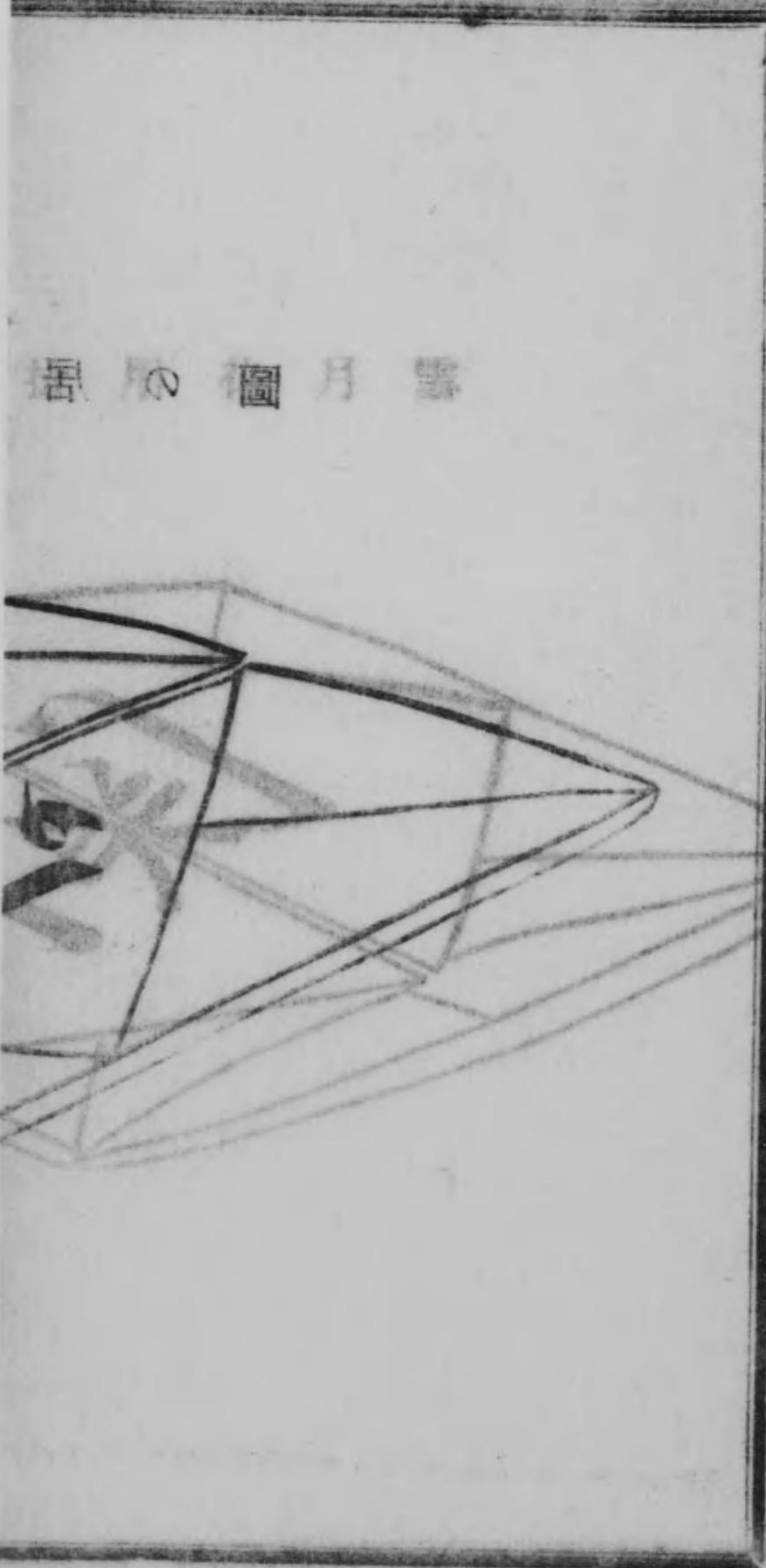
同名乗紙の圖



棗莊の方の圖



茶...の...  
茶



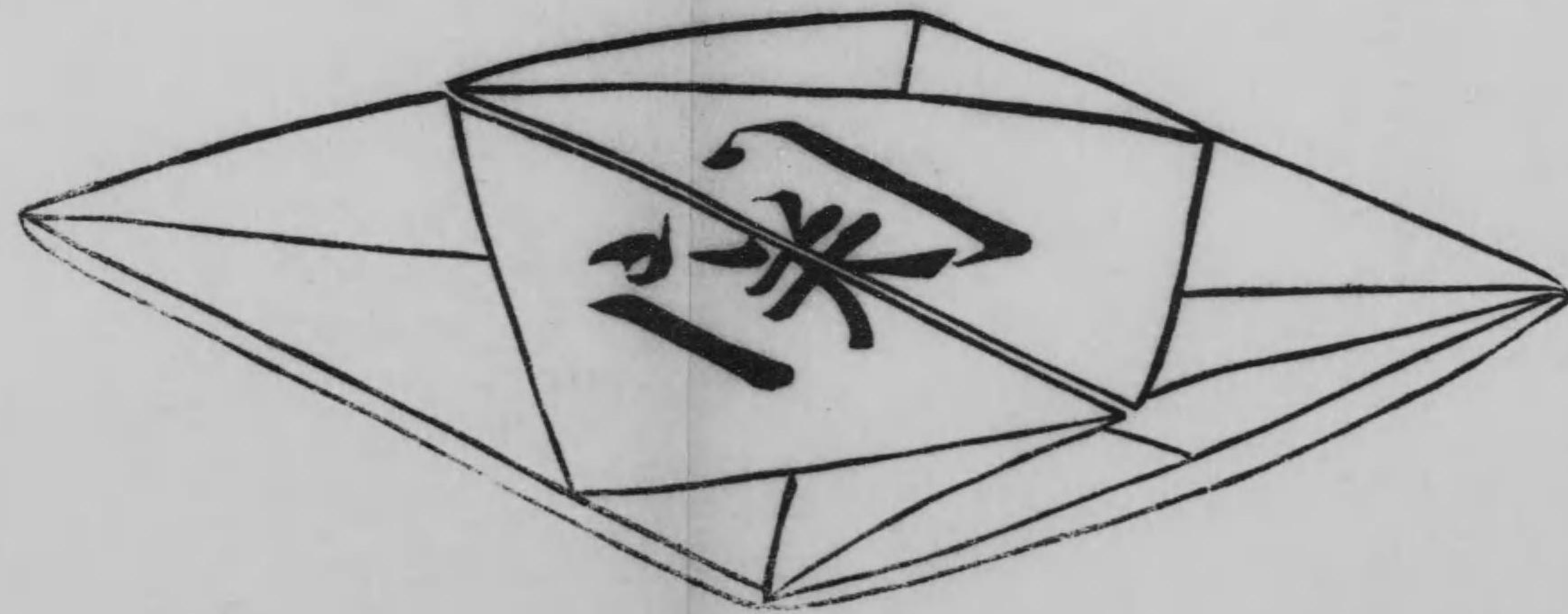
雪月圖の圖

茶



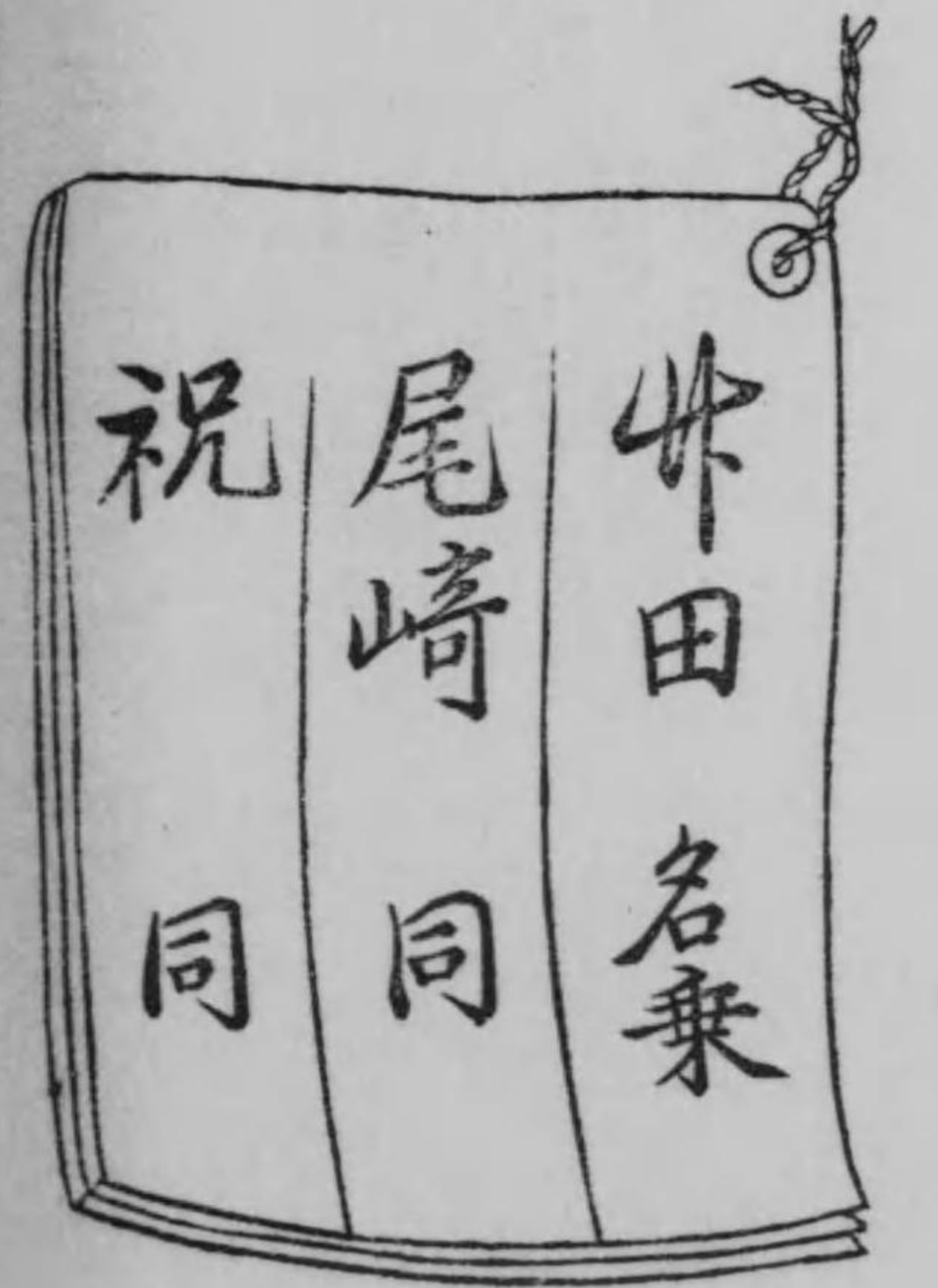
道茶  
うらの  
のとま  
や五之  
卷

圖の居折用花月雪



完

圖の紙乗名同

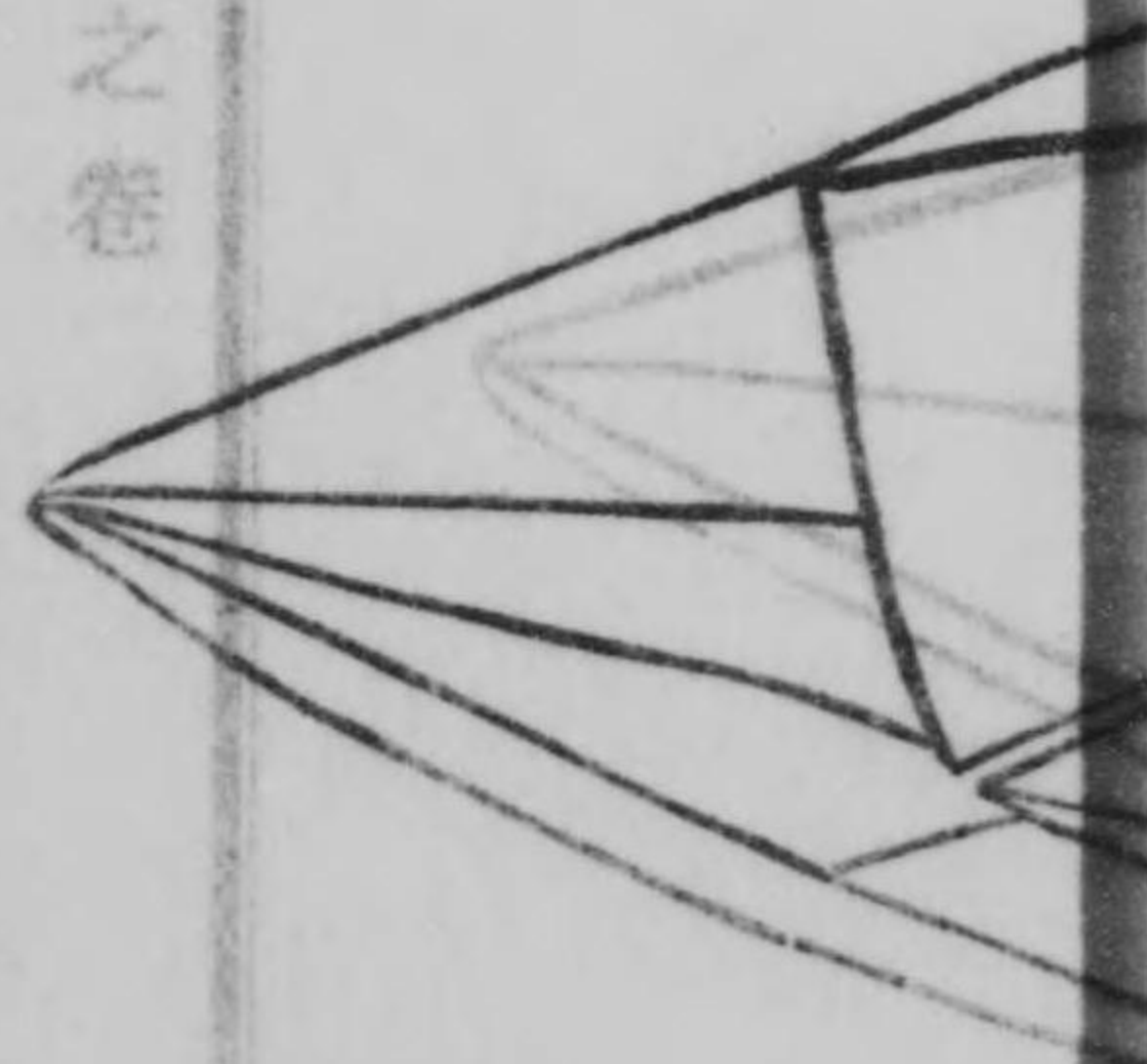


圖の方莊棗

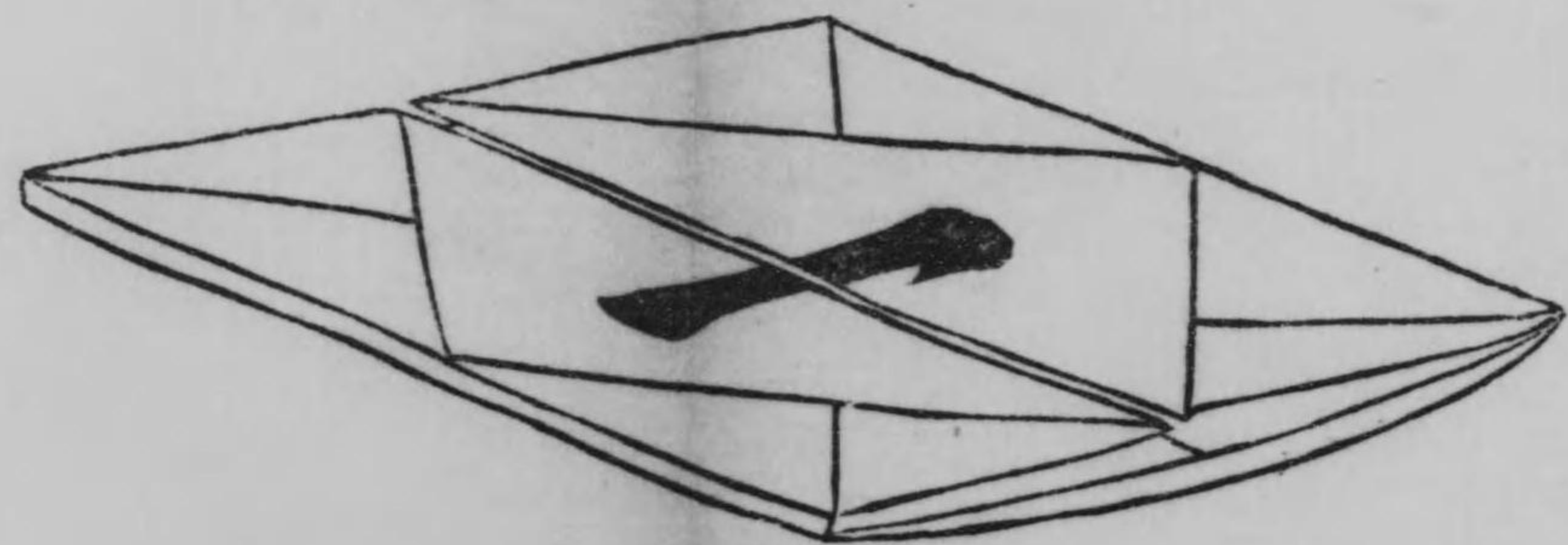




茶  
うらのとまや五之巻



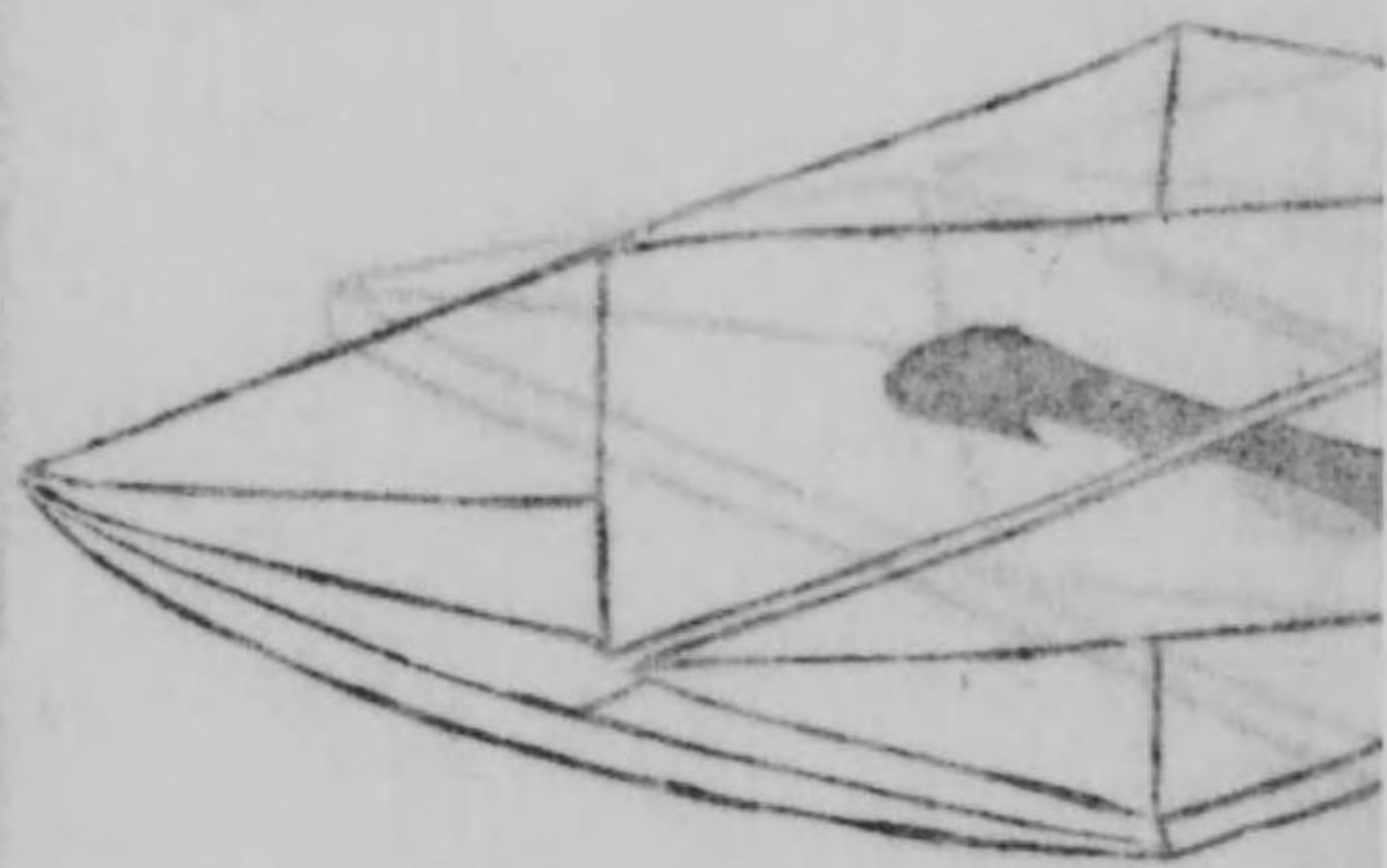
花月用折居の圖



茶  
うらのとまや五之巻終



茶道 五之巻 茶室の図



茶道 六之巻 茶室の図

目次

- 一 廻り花の式
- 一 且座の式
- 一 廻り炭の式
- 一 一二三の式
- 一 宗匠付一二三の式
- 一 花一二三の式
- 一 炭一二三の式



- 一員茶廻り點の式
- 一員茶通ひ付の式
- 一花寄の式
- 一小習十六ヶ條名目
- 一當流相傳の順序
- 一茶箱點前の名目

茶道  
ららのとまや 六之卷

廻り花の式

一客待合連座すること圖の如く尤も間中に一人づゝ並び座し手を組み居るべし扇を抜き後へ置き上客は扇子の頭を下座の方へ向けるなり二客より末座までは扇子の頭を上客の方へ向け置くなり七事待合總て之れに同じ



一主人迎附に出て待合の襖を開け待合の内入りて一禮し客方總禮す主襖を建てかけ退くそれより勝手へ入り花臺を前に置き客の席中へ入るを待居る

一客は上客より順次次禮をなし襖を開き座敷へ入る此時は右の足より入るべし末座の人は襖を閉めて座に着く

一亭主花臺を両手にて持ち出て(□花)印の處に置附け座に歸り上客へ一禮す

一上客は受禮をなし又次禮して座を立ち花器

の前行き花を活けて退き元座に歸る

一次客次禮し再び上客へ揚げ禮をなし座を立ち花器に行き活け在る花を眺め更に其花を抜き取り花臺の上に置き上客に同じく我思のまゝに花を活け退き元の座へ歸る末客まで同斷なり

一主人末座へ花を上げる禮をして花器の前行き花を活け替へ元の座へ歸るべし

一上客主人へ花を上げる禮をして花器の前行き花を活け歸る是れより何遍廻りても次



禮をなすに及ばず然れども花を上ぐる禮は必ずなすべし又花を挿し添へることもあり何れにても花を活けまじと思ふときは我が順に廻り來るとき次に禮をするなり次の人受けて立ち花を活けるなり三四五遍も廻りて最早止むべしと思はゞ亭主より御水をと述べ上客は受けて水注を取り花器へ水を差し退く主人出でゝ花臺を取り持ち退き(○主)印に居て(□臺)印に花臺を置付け一禮し主客共に總禮す次に花臺を持ち退く此の如くし

て(□臺)印に臺を置き送禮するときは初めにも臺を持ち出て其所に置き迎へに出る方宜し本式に初め待合へ迎へ出でたるときは仕舞も花臺を勝手へ持ち退き更に待合へ送りに出づる可し

一亭主花を活けたるとき上客より御水を述べることもあり其時は受けて花を活け水を注ぎ仕舞ふこともあり又受禮して花を抜き取り水を注ぎ退き上客へ御花と乞ひて禮をなすることもあり時宜に依り心得あるべし



一廻り花座敷の疊敷は定めなく客敷も定まりなく凡そ圖に就きて見ら可し

旦 座 式

一旦座を催さんと思はゞ先づ五人の勤役を定め置べし

一香 此の三つを三客の内にて何れの役

一炭 を何れが勤めて苦しからざれど香

は上客と定め置く方よろし

一花

一東は濃茶を點てること

一半東は總て物を運び薄茶を點てること

一茶席は八疊敷又は十二疊半にてもよし又四疊半にてもつとむるなり

一席入迄に花入筒に水を凡そ八分目程張り置くこと

一棚物を据ゑ置き棚の天井に濃茶器を右の方に置き薄茶器を左の方に並べ置き濃茶を人数ほど入れ置き又棚の下には水指を莊り置く可し



一 釜を掛け下火を調べ置くべし

勝手を用意すべきもの左の如し

一 花臺に花二三種、花切小刀、水注に巾を添へ置く

一 炭斗に炭、枝炭、羽箒、火箸、鑲、釜敷、

一 灰器に灰を入れ灰匙を附け置く

一 香盆に香爐へ火を調へ灰を押へ香爐の一本足を前にして聞筋を附け置き銀葉鉢、香箸、重香合の上の重に香包を入れ下重に銀葉を入れ置く

一 茶碗に茶巾、茶筌、茶杓、を組み入れ置く

一 建水に柄杓、蓋置、を組み入れ置く

一 菓子器に莊り菓子を組入れ置く

一 水注に水を入れ巾を添へ置く

一 東半東は服紗を提げ夏冬とも足袋を用ゐること

### 旦座式の次第

一 客待合溜の間へ連座すること廻り花の如し

一 東迎付に出で、待合の襖を開き主客共に總



禮して襖を閉め退き勝手口に控へ居り客入り待つ

一上客次禮して立ち襖をあけ茶席へ入り座す  
二客も同じ三客は襖閉め切り席へ入り着座す

一客残らず着座するを見て東は茶道口の襖をあけ立出て茶席に入り東の座に着く

一半東花臺を持ち出て花印に置き退いて炭斗を持ち勝手口に控へ居る

一東客に一禮いたし花を所望す

一花を活けに行く人は受禮して立ち出て花入筒の前へ行き花を活け終らば主人より水を所望す客は水を指して元座へ歸る若し半東花臺を左の方に置きたるときは右の方へ直し花を活け水を指して後に花臺を元に戻す可し

一半東炭斗を持ち出て爐傍に置き其の歸りに花器の前へ行き花を見て花臺を勝手へ引き灰器を持ち出て假座に置き勝手へ入り香盆を前に置きて控へ居る



一東一禮して炭手前をなす人へ所望す  
一炭の人受禮して座を立ち出て假座に着き灰器を持ち爐前へ行き炭をいたし客方一同並びに東まで法の通り炭を見に爐の傍へ寄る可し炭終れば灰器を假座に戻し置き座に歸る若し客女子のときは半東は灰器の右へ服紗を添へ置く可し  
一半東香盆を持ち出て客の前へ置き其の歸りに灰器を持ち勝手へ入り又出て、棚の前に座し天井より濃茶入を水指の正面へ下ろし

續いて薄茶器を天井の真中に直し置き炭斗を持ち退き次に茶碗を前に置き勝手口に控へ居る

一東は香の人へ香所望の一禮をなす  
一香を勤むる人受禮して香爐の火加減を右の手にて見て一膝進み右手にて重香蓋を取り左手を添へて疊の上に置き右手にて香包を取り出し右の膝の疊の縁より二ツ目に置き次に重香合の蓋を爲し續いて蓋を爲したる儘次の重を取り前の如く疊の上に置き銀葉



鉢を右にて取り左を添へ銀葉を挟み香爐の上  
上に載せ銀葉鉢を元に戻し右手の無名指に  
て銀葉の真中の所を軽く押へ右にて香包を  
取り左の手へ持ち置き香包の下を一ツひろ  
げ置き右にて香箸を取り香箸にて香包の横  
をひろげ香を挟み左手にて香包を閉め左手  
の指先にて向を一ツ折り左の方疊目二ツ目  
へ假置なし左を添へ右手にて香を焚き香箸  
を元へ戻し置き香包を取り前を折り右方へ  
戻し置き右手にて香爐を取り上げ香の加減

を試み香爐を二客へ廻し置き重香を元の如  
く重ね其蓋を取り前の所に置き次に右手に  
て香包を取り重香合の中に入れ始めの如く  
蓋を爲し一膝後ろへ下りて控へ居二客は次  
禮して香爐を取り戴き廻し聞筋を向ふにし  
て嗅くこと嗅き了りて香爐を元へ廻し戻し  
足一つを前にして三客へ送る三客同じく次  
禮して前の通り香を嗅ぎ香爐を東へ送る東  
は香元へ一禮して香を嗅き了つて香爐を其  
儘にして香元の前に行き香盆右の方へ戻す



香元は香爐を取り上げ本嗅をいたし香爐の  
嗅筋を前へ向け直し盆中の元の所に置く東  
は此時其儘にと會釋す香元は之れを受けて  
一膝前へ進み盆を下にて前向ふへ廻し少し  
向ふへ進め置き一膝後へ下りて控へ居る  
一半東立ち出て茶碗を持ち水指の前に在る茶  
入と置合し其歸りに香盆を持床又は床脇に  
莊り勝手へ入り建水を持ち出て假座に置付  
け三足後ろへ下り半東の座へ着く  
一東出でて建水を持ち點前に着き柄杓を引き

總禮いたして定法の通り濃茶を點てること  
一上客立ち出て茶碗を取り元座に着き客方一  
同並びに半東まで總禮する半東は直ちに立  
ちて東の座に着き濃茶を相伴爲し飲み切る  
と上客より茶碗拜見を乞ふ  
一半東受禮して上客の前に行きて茶碗を置き  
半東の座に歸る  
一上客より次禮して茶碗を拜見いたし三客目  
の人は茶碗を爐前へ渡す  
一東茶碗を取り込み下に置き客方並びに半東



まで總禮濟むと半東立ちて勝手へ入り菓子器を持ち出て上客の前に置く東は茶碗の湯を棄て茶碗を進め置き東并に半東は共に立ちて東の座に歸り半東は點前に行く此時東半東勝手口の傍にて互に左脇のすれ違ひに行き違ふなり

一半東爐前へ行き着座して薄茶器を居前なりにて棚より下し茶碗と膝との間に置き服紗を捌き薄茶器を拭ひ薄茶器を建水の向ふに置き湯を汲み茶碗を濯ぎ定法の通り薄茶一

服點て出し置く東茶碗を取り入るゝを待ち取り入ると茶杓を取り棚の右の方へ上げ(水指の右の方にて宜し)濃茶入を棚の上真中へ載せ置き左の手にて薄茶器を取り濃茶入の跡に置き右にて茶杓を取り薄茶器に載せ置くなり

一上客は半東の通り茶杓に手を掛け茶を茶碗に入らゝ前に菓子器を取り戴いて次へ廻し送り禮をいたす東まで同斷

一東菓子來らば戴き前向ふに廻し下に置き點



前より茶を點て出したるとき菓子器を持ち  
立て上客へ返し置き其歸りに茶碗を取り元  
座に着く茶を飲み了り茶碗を點前へ戻す半  
東取り入れ茶碗を置き湯にて濯ぎ湯を棄つ  
ると上客より仕舞の一禮あり半東は常の通  
り仕舞ふこと

一上客は仕舞を掛け置き菓子器を右へ片付け  
置くこと水指の蓋閉めたるるとき三器拜見を  
半東に乞

一半東柄杓を片付け置き棚の上に在る茶入を

取り左の手に載せ客付へ持ち廻り法の如く  
拭ひ出し又茶杓袋も法の如く出し建水を引  
き茶碗を引き水を指し勝手口に控へ居る  
一上客常の通り三器を引き三客まで次禮にて  
拜見をいたし三客より三器を爐前へ出す  
一半東出でゝ爐前へ座すと客方一同東半東と  
も總禮し置く東は半東の三器を取り持ちた  
るを見て立ち勝手へ入る半東は東の後に從  
ひ同じく勝手へ入る可し  
一上客より順に待合へ退くこと



一東半東の兩人待合へ送禮に行き客方總禮し  
東先きになり半東其後に従ひ戻りて勝手に  
て東半東兩人一禮あり了る  
一香を一順聞き濟んで香元香爐を下に置くと  
東より御香其儘と申さぬ時は半東は香盆を  
勝手へ引き其儘と云ひたる時は香主は香を  
其儘香爐に置いて盆を下にて前向ふに廻し  
進め置くと半東勝手より立ち出て來り香盆  
を取りて床か又は違ひ棚か或は書院かへ香  
盆の儘莊り置く事又床、棚、書院、無き時

は(□香)印へ莊り置く可し但し床無き時は其  
儘と申さぬ方宜し此時は半東は香盆勝手へ  
持入ること  
一風呂の節には炭に當りたる人炭を仕舞ひ定  
座へ歸ると半東出てゝ灰器并びに炭斗を引  
き香盆を持ち勝手口に控へ居る此時上客よ  
り次禮して炭を見に行くこと東並びに半東  
又は炭手前を爲したる人は炭を見に行くこ  
となし終れば半東は香盆を持ち行き香の人  
の前に置き其の歸りに棚の上の濃茶器を下



へおろし水指の前に莊り勝手口に控へ居る  
以下爐と同じ

一次香付くときは東香主へ一禮の時次香の人  
も共に一禮し更に次客へ次禮して本香主の  
人は火加減を見る此時は一順香主の香を嗅  
き香主も本嗅をして香爐を下に置き重香合  
をあけ銀葉鉢を取り香爐中の銀葉を挟み焚  
殻入へ入れ置き重香合を閉め香盆を次香の  
人へ送る次香の人は志野袋を出し法の如く  
香を焚き試嗅いたし香爐上座の方へ出す上

客より順に香を嗅き東まで嗅ぐ次香の人も  
本嗅をいたし香爐を盆中に置くと東より前  
香御焚添をと云ひ次香の人へ一禮いたし次  
香の人受禮して重香合をあげ焚殻入に在る  
前の香を香箸にて挟み香爐の中銀葉の上に  
向つて右の方少し次香より上へ載せ置き焚  
添へるなりそれより重香合を仕舞ひ香盆取  
り前向ふに廻して下に置き一膝下り居ると  
と半東出て香盆を取り床又は棚書院等に  
莊り置く



一次香の人は香爐へ銀葉を載せる時には斜に置く

一香袋は香を焚て後袂へ入るゝとき長緒を袋へ巻き付けて袖へ入るゝ

一香袋は香を出して後左の膝先へ假置するも宜し香包も上に香を出して後假置するも宜し縁より二つ目なり

一香を聞くととき三返り嗅き上客は上の方へ吹き出し次よりは下の方へ吹き出すこと

一香を嗅くととき男子は左の鼻孔より嗅き女子

は右の鼻孔より嗅ぎても宜し

一香を嗅ぐとき嗅筋を向ふにいたして嗅くと

一香爐戴き初め廻すときは外に出づるやう逆にして廻す嗅き了りて戻すときは内へ右へ廻すこと

一香爐を香盆へ組み載せあるときは嗅筋を前にいたし足一本前なり



廻り炭の式

- 一 炭臺に炭、枝、羽箒、火箸、鑊、香合、等を組み置く
- 一 釜敷紙
- 一 灰器に灰匙を入れ置く
- 一 巴半田に火箸底取を入れ置く
- 一 横筋半田に火箸を入れ置く
- 一 水注に巾を添へ置く
- 一 半田の足、巴半田、筋半田とも足二つある

方を爐へ付ける

- 一 八疊に限らず小間にてもいたす人数定まらず三人より六七人までを宜しとす

廻り炭の次第

- 一 客待合に連座すること
- 一 主人迎付に出て、主客共に總禮して主人勝手へ入る
- 一 上客より次禮して次第に席に入る圖の如し
- 一 主人炭臺を両手にて持ち出て(○イ)印へ据ゑ



置き爐前へ居直り羽箒を出し爐傍へ置き蓋  
を閉め鑲を取り釜に掛け釜敷を出し(○口)印  
へ釜を上げて釜を(○ハ)印へ引き置き鑲を外  
し釜の下に置き爐前へ向ひ爐縁を掃き羽箒  
を炭臺へ載せ置き両手にて炭臺を持ち左膝  
傍に置き勝手へ退き巴半田を両手にて持ち  
出で爐縁に少しく掛け半田の足二つ爐の方  
にいたして置く此時客方次禮して爐傍(△一)  
(△二)(△三)(△四)印の所へ出る主人底取を半  
田の前の縁へ俯向けて凭せ掛け置き長火箸

を取り炭と火を半田へあげ小火を中へ寄せ  
長火箸を半田の前縁に凭せ掛け置き底取を  
取り爐中の底を取ること二度すくひ上げ底  
取を半田へ掛け置き長火箸を取り爐中四方  
の隅を立て残りたる小火を中へ寄せ灰を均  
し又半田へ長火箸を凭せ掛け底取を持ち灰  
を一掬ひあげて底取を又半田へ凭せ掛け置  
く長火箸を持ち半田にあげ置きある火の中  
の宜しきを見計らひ一つ二つ爐中に入れ灰  
の内に埋め置く長火箸底取を一緒にして右



手に持ちたる儘半田を両手にて持ち勝手へ  
 退き灰器を持ち出て(○二)印に置き灰臺を両  
 手にて持ち(○イ)印に直し置き羽箒を出し爐  
 傍へ莊り香合を(○ホ)印へ出し置き羽箒にて  
 爐の縁を掃き羽箒と香合とを置き合せ炭取  
 を少しく向ふへ押し遣りて灰器を爐傍へ置  
 き灰を爐中へ能く整へ灰器を右の手にて取  
 上げ右にて元の所へ置き羽箒を取り爐縁を  
 掃き五徳の爪も能く掃き羽箒を爐の傍へ置  
 き香合を取り香を焚き香合の蓋を閉め元座

に置く主人上客へ一禮して炭を整ふなり此  
 時は後にて炭を入れる故に香を先に焚くと  
 主人の注ぐ炭は摸様に拘はらず随分炭を  
 澤山に注ぎ枝炭も多分に注ぐべし炭注ぎ了  
 りて香合を炭臺へ載せ置き羽箒を取り爐縁  
 を掃き羽箒を炭臺へ載せ置き火箸を炭臺の  
 右の方へ入れ替へ置き炭臺を両手にて取り  
 (○ロ)印に置く右へ廻り右の手にて灰器を持  
 ち釜の傍(○ヘ)印へ置き勝手へ入り筋半田を  
 持ち出て(○イ)印へ置き(△五)印へ行て座し上



客に一禮す上客受禮して又次禮いたし座を立ち爐前へ行く此時連座主人に至るまで一同に座を繰り上げるなり上客炭を見て主人へ揚げ禮をなし半田を両手にて持ち爐の傍へ寄せ長火箸を持ち炭を半田へあげ長火箸を半田の縁に凭せ掛け置き炭臺に入れある桑柄の火箸を取り炭を注ぎ其後にて桑柄の火箸は炭臺へ右の手にて戻し長火箸を半田へ戻し立つて末座に着く但し上客並びに主人の外は胴炭をいぢること無用二客次禮し

て座を立つと連座一同繰り上げ二客爐の前へ行き炭を見て上客へ揚げ禮をいたし炭を注ぐこと上客に同じ斯の如くにして末客まで同じ末客は亭主へ次禮をせずして立ち爐前へ行き炭を見て揚げ禮をいたし炭をあげて又注ぐなり亭主も次禮いたさずして立ち爐前へ行き炭をあげる禮して炭をあげ又炭を注ぐなり後何遍廻りても次禮いたさずあげ禮ばかりをなす

一二度目より炭注ぐまじと思ふ人は自分の番



に廻り來るとき次客へ次禮をいたし座を立ち末座へ着くこと又次の人も座をいたさずと思ふときは又次の人へ一禮して座を立ち行き末座へ着くこと幾人にも炭いたさむ時は斯くの通りにいたすなり  
一連座數遍相廻り上客爐前へ行きたるとき最早止むべしと思ふときは亭主より上客に向け御炭にて御釜をと云ふて一禮いたし上客受禮して炭を残らずあげ下火を掘り出し火を割りて火箸は半田に載せ半田を少しく右

へ寄せ置き少しく左へ廻り左の手にて灰器を取り右手にて(○十)印に置き灰を撒き後右にて持ち又少しく左へ廻り左の手にて(○へ)印へ据ゑ置き爐前へ戻り左の手にて羽箒を取り右手へ持ち替へ爐縁を掃き又左へ持ち替へ炭臺へ載せ半田を両手にて爐傍へ寄せ長火箸を取り半田の縁に凭せ掛け置き左にて桑柄の火箸を取り右へ持ち替へ炭を注ぎて後ち火箸を左の手にて炭臺へ戻す長火箸半田へ載せ半田を右へ寄せ置くこと



一客方は爐前の人枝炭を注ぎ済むと連座一同立ちて本座へ歸る此時主人は勝手口に座ること

一上客爐前を立ち本座へ着すと主人出て半田を持ち勝手へ退き又出て爐前に着き炭臺を両手にて持ち(○イ)印に置き羽箒を出し爐傍へ莊り香合を出し羽箒を取り爐縁を掃き羽箒を炭臺へ載せ置き香合を取り香を焚き香合所望あらば客方へ出す所望なき時は直ちに炭臺へ載せ置く上客は香合出づると

直ちに取り込み次禮して手早く拜見を爲し炭臺を引くまでに香合を戻すこと

一釜の方へ向き鑲を掛け釜を引き鑲を外し釜の左の方に置き灰器を持ち勝手へ退き水注を持ち出て釜に水を注ぎ釜を拭ひ水注を勝手に引き又出て釜を掛け釜敷を拂ひ懷中して鑲を外し炭臺へ載せ置き香合戻らば一禮して炭臺に載せ置き炭臺を持ち勝手へ退く

一上客より順に一同待合へ退き着座いたす主



人は總禮に出て主客總禮す

一止炭は上客へ所望するを本意とす又上客よりは主人へ好まんとするを禮儀とす

一夜分の時手燭を持ち迎附に出て其歸りに手燭を爐の左の傍へ残し置き勝手へ退く炭了つて後手燭持ち退く勝手口の外にて禮をなし勝手に退く

一待合を略し客始めより爐席に入るときは炭臺を持ち出て(○ト)印へ置き一禮して又炭臺を持ち立ち爐傍へ行き(○イ)印へ据ゑるなり

一客待合に在るときにても初め炭臺を持ち出て置き(○ト)印に置き一禮して爐傍へ持ち行く方を宜しとす

一下火を掘り出し本炭いたすときは胴炭を上げることなし始めより入れたる儘を宜しとす

一桑柄の火箸は都合にて筋半田に入れ置いても宜し

一長火箸は向ふ切爐のときは壁に立て掛け置いても宜し



一主人巴半田を持ち出したるとき客方爐の傍へ出る可し

一 二 三 の 式

一大方は濃茶點前を宗匠初め連座巧者の人々十種香の札を以て點前の善惡を考へ見て各々其思の儘に札を打つこと  
一炭花並びに小習又は相傳等いたすも苦しからず

一客方宗匠初め客各々待合溜の間に着して扇

子を座の後の疊の縁の上に載せ置くこと七事式は扇子總て斯の如し

一茶席は法の如く水指茶入を莊り置いて勝手に硯蓋の上へ折居並びに札箱を整へ置き迎へに出づること定法の如し

一客方迎付を受けて上客より次禮して各々扇子を腰に差し茶席へ入り着座して扇子を後の疊の縁の上に置く

一亭主硯蓋の上に折居札箱組入れたるを両手にて持ち出で客の前に置き上客へ一禮して



勝手へ入る

一上客硯蓋を取り上げ圖の如く右の方に片付け置く主人茶碗を持ち出て茶入と置き合せ建水を持ち出て常の通り濃茶を點てること定法の通り客方も定法の通りなり上客仕舞の挨拶済むと主人常の通り茶筌とうじをいたすとき上客次禮して硯蓋を両手にて取り眞前に置き札箱を一つ取りて右の膝の傍疊の縁内二つ目に置付け硯蓋を取りて疊の縁外を次客へ送る以下何れも同じ末座札箱を

取り置き折居を硯蓋の眞中に直し置き両手にて硯蓋を持ち前向へ廻して上客の前に持ち行き置き元座に歸る上客は硯蓋を元の座へ片付け置き常の通り三器も拜見を乞ふ見了りて點前へ返し置き主人茶入茶杓袋も引き勝手へ入るなり然る後客方は札箱を取上げ思ふ所の札一枚を撰び出し膝の先へ札の繪を上にして置き残りの札は札箱へ入れ初めの通り客札二枚を上にしたし置き札箱を膝の先の札の上に載せ置くこと



一上客宗匠なれば硯蓋を折居の乗りたるまゝ  
次客へ廻す次客硯蓋を取り前真中に置き折  
居を硯蓋の下に在るまゝにてあけ右の手に  
て札箱を下し其下に撰び置きたる札を取り  
繪の方を上にして折居へ入れ三客へ廻す末  
座まで同斷末座札を入れ直ちに折居を取り  
折居を広げ札を左掌に残らずあけ月の札よ  
り順々に並べて折居を硯蓋の真中前の方に  
置く但し折居を先に置くそれより札の點の  
高きものより順次に並べ硯蓋を取上げ前向

ふに廻し上客の前に持ち行き真中前に置き  
元座に歸る宗匠次禮して札を拜見いたし自  
分の札を取り札だけ少し向ふへ寄せ向つて  
右の方へ打ち置き札箱を取上げ折居と札と  
の間へ載せ次へ廻し置き後の扇子を取出し  
前の疊の縁の上に扇子の頭を二客の方へ向  
け置くこと二客硯蓋を取る前に次禮をして  
硯蓋を前に取り置き拜見して箱を取り硯蓋  
に載せ次へ廻す末座まで同斷  
一宗匠と同じに札の合ひたる人は後の扇子を



取出し頭を上の方へ向け前の疊の縁の上に置くなり末座より硯蓋を前向ふに廻し(○硯)印の所へ持ち行き置附く亭主出て假座へ着き両手を突き敬ふて札を見て硯蓋を取上げ戴き下に置き主客總禮して主人硯蓋を持ち勝手へ入る客方次に退き溜の間に行き主人總禮を爲して終る

一 宗匠なきときは上客より札を折居へ入れ次客へ次第に出し扇子を出すこと無し

一 亭主も札を打つことあり札箱を一つ勝手に

置き手前濟み茶具を勝手へ引き打つべきと思ふ札を一枚扇子に挟み持ち出て假座に着して硯蓋を引寄せ下げて左の方へ札を打つて硯蓋を上客の前に持ち置き退き假座に着す上客札を見て其儘次客へ廻し末まで同斷末座より元の所へ出す主人は敬ふて見主客總禮して持ち入る以下前に同じ

一 客札を打つは看別け難きときに打つか又は大極上々のときかに打つべし

一 主客共に硯蓋を取り拜見のときは宗匠附は



先づ両手を突き札を拜見いたし後両手にて  
 取上げ戴き次へ廻し常のときは先づ両手に  
 て硯蓋を取上げ持つて見て次へ廻すこと  
 一薄茶一二三は薄茶に異ることなし

花の一二三の事

一主人花を用意して迎へに出づる客方座敷へ  
 入る主人札箱を持ち出て上客の前に置き一  
 禮して勝手に退き上客次禮して札箱を取り  
 次へ廻す末座の人折居を真中へ直し前向ふ

にして上客の前に持ち行き退きて座に着す  
 上客硯蓋を右の方に片付け置く主人花臺を  
 持ち出て花器の前へ行き法の通り花を活け  
 る上客より水を乞ふ主人水を指して花臺を  
 持ち入り勝手口に控へ居る上客次禮して立  
 ち花を拜見いたし末まで同斷相濟んで客方  
 一同札を打ち札を折居へ入れて次第に廻し  
 末座折居より札を出し並べ上客の前へ持ち  
 行き上客札を見て箱を載せ次へ廻す末客ま  
 で同斷末客硯蓋を假座へ持ち行き置く主人



出で、敬ふて札を見總禮して勝手へ入り送  
禮に出て了る

炭の 一二三の事

一主人炭臺を用意して置き迎付に出で客方座  
敷に入るこゝと硯蓋を持ち出で上客の前へ置  
付け一禮して勝手へ入る上客硯蓋を右の方  
へ片付け置き主人炭臺を持ち出で爐傍に置  
き灰器持ち出で定法の通り炭をいたし客方  
爐傍へ拜見に出づること香合の拜見を乞ふ

可し主人炭臺を引く客方は着禮にて札箱を  
取り廻す末客より香合を戻す主人出で、香  
合を引き勝手口に控へ居る末客は硯蓋を上  
客の前に持ち行き思ひの通り札を打つこと  
前に同じ末客札を出し並べ上客の前に持ち  
行き次禮にて拜見し箱を硯蓋に載せて廻す  
末客まで同じ末客例の通り假座へ持ち行き  
歸る主人出で、敬ふて札を見總禮して勝手  
へ入り送禮して了る

一風爐のときは主人硯蓋を持ち出で上客の前



に置き勝手より炭斗を持ち出て炭に掛る上客次禮して箱を取り次へ廻す末硯蓋を上客へ戻す主人炭を仕舞ふと上客より炭拜見の挨拶あり主人受けて釜を掛けずに灰器を持ち勝手へ入り水注を前に置き控へ居る上客次禮して拜見に行き炭并に灰を見る末客まで同断上客は拜見の歸りに香合を取入れ元座に歸り次禮にて拜見を爲し香合を末客より主人へ戻す主人は水注を持ち釜へ水を注ぎ水注を持ち入り次に出て釜掛け炭斗を引

き香合を引きして勝手口に控へ居る上客札を入れ定めを通り末客硯蓋を主人に出す主人法の如く持ち入り送禮して了る

員 茶 の 式

一 假りに客數を六人とせば亭主并札元共八人なり此時は十種香に用ゆる香札にて松竹梅藤菊柳櫻水仙と八種の札を裏向にして表は一と客とにいたし二枚宛都合十六枚を茶かぶきに用ゆる折居の内へ上に一の字を並べ



下に客の字を並べ置き茶具も定法の通り仕  
組み置き煙草盆菓子器も組み置く可し  
一客方爐の間へ列座する末座の客目附として札  
を改むるなり主人迎附に出で總禮して勝手  
へ入り煙草盆を持ち出で上客の前に置き  
勝手へ入る上客は煙草盆を右の方に片附け  
置き主人菓子器を持ち出で上客の前に据え  
置き勝手へ入る上客菓子器を右の方煙草盆  
の前に片附け置く主人折居を両手にて持ち  
出で上客の前に置き退く水指両器建水を持

ち出で假座に置き客方に向ひ座す上客は次  
禮にて折居の内の札一字の書きたるを取り  
我前右の方疊の縁内二つ目に一の字を上  
して置き折居を両手にて取り疊の縁外五つ  
目を次客へ廻す目付まで同斷目付は主人へ  
一禮して折居の札を取り折居を縁より外五  
つ目札元の所へ出す札元は折居を主人へ取  
次ぎ(□イ)印に出す主人札元へ一禮して折居  
を取り札を出し折居を(□ロ)印へ出し置き札  
を持ち左の手にて建水を持ち點前に行く事



札元折居を取り内に在る札を取り(□ウ)印へ置く但し我前疊の縁内右の方二つ目に置き折居の中に在る札を右手にて能く混ぜ折居を閉め疊の縁内左の傍七つ目に置附ける主人は定法の通り柄杓を引き總禮それより両器を取入れ茶筌とうじをいたし湯を捨て茶巾を取るとき札元折居を両手にて取上げ中より客印の札を一枚出し我前疊の縁内直中二つ目に置き折居は其儘据ゑ置く主人より茶を點て出すと札元は前の札を取り梅なら

梅と名乗る梅の人梅と名乗り茶碗を取り茶を飲み了る

一後茶を飲まじと思ふときは札を繪の方を上に向け置き茶碗を左の手に載せたる儘右の手を下に突き梅の札御除け下されと札元へ乞ふ札元受禮して折居は疊の縁内へ戻し置き梅の札を取り我札の右の方に除け置く梅の人は札元へ除札の一禮いたしたらば茶碗を持ち立ち點前へ返し置き座に歸る梅の札の人若し茶を今一服飲みたしと思ふときは



茶を飲み切り茶碗を點前に持ち行き札は前  
の通りに客を上にして置くこと其時は札元  
は梅の人の立つを見て梅の札の一を上に向  
け折居へ入れ折居は戻し置くこと

一主人は客の數ほど茶を點てること折居の札  
残らず拂ひたるとき札元より上客へ一順相  
濟みたりと云ふ上客より常の通り仕舞を告  
げ主人受けて我札を取り茶碗を出す所へ札  
を疊の目二つ目に出し置き常の通り仕舞ふ  
こと

一札元は上客へ一巡相濟みたりと一禮して置  
き折居へ札を一の字を上にして残らず入れ  
並べ折居を両手にて持ち上客の前に置付け  
其歸りに爐傍にある主人の札を取り座へ歸  
り主人の札と我札とを並べ置き折居の上よ  
り來るを待居る上客順に札を入れ送り目付  
より折居札元に廻り來らば折居を取り主人  
の札を入れ我札をも入れ折居を控へ置き主  
人水指を引き續ひて折居を取る前に主客總  
禮主人折居を持ち勝手に退く



- 一 煙草盆並びに菓子器は置きたるまゝ
- 一本法は札元の取りたる札は員取りに用ゐる爲なり
- 一 札元當たる時札を除けんと思ふ時は目付へ答へ置き札を除けること
- 一 札元折居を止め置くときは縁内七つ目に止め置く
- 一 上客は折居を縁外五つ目を廻す札を取るも縁外なり
- 一 札は縁内右の膝先二つ目に置く

- 一 目付は客なり札元主人は菓子を取ること無用煙草盆も用ひず
- 一 主人茶を飲むときは札を名乗つて客付へ廻り茶を飲むこと
- 一 札元の札にて員を取るときは疊の目一つづつ下におろし置く可し
- 一 菓子を扇の上に取りるときは右の膝先に扇子を置いて取り菓子を食し扇子は後に片付け置く可し
- 一 菓子器煙草盆は二つとも仕舞の挨拶の後上



客へ戻し置く可し

一 札元は札の都合に依り摸合にいたすことあり其時は摸合のことを札元より主人へ答へ置き札二枚出し置き茶出でたるとき札を一枚づゝ名乗る此時は座し居る順にて上の人茶碗を取り次へ一禮いたし飲んで茶碗を次の人へ持ち行き次の人より茶碗を戻す可し

一 除札をいたし居る人又茶を飲んとすれば札元へ何々の札御入れ下されたと云ふなり

一 今は除札を後より又入れることをせず

一 札元の札は初め疊の目一つ目に置くこと一服に付き一つ目づゝ下げ人数だけ員取りたるとき上客へ一順と云ふを宜しとす

一 札元除札をいたすときは上客何々の札を除けたしと云ふこと

### 通ひ付員茶の式

一 煙草盆菓子折居を通ひの者持ち出し上客の前前に置附け末座に着き主人水指両器建水を持ち出で假座に置き座を開き居る目付より



折居來ると通ひの者折居を前向ふに廻し主人へ出す主人札元へ一禮して札を取り札の繪を見て後札を折居の上に載せて通ひの者へ折居を返す通ひの者は折居を取り元の座へ置き主人の札を取り自分の右の膝先へ置き此札にて數を取らなり札數残らず濟みたるとき通ひの者より仕舞と云ふて折居を上客へ持ち行き上客より札を入れ札元へ廻り札を残らず入れ自分の札も入れて通ひの者へ送る通ひの者は主人の札を入れ折居を勝

手へ引くなり主人水指を持ち歸りに踏込疊の真中へ水指を置き上客の方へ向き總禮し又水指の方へ向き水指を持ち勝手へ退くなり

### 廻り點員茶の式

一員茶の通り目付札元あり主人員茶の通りにいたし煙草盆菓子折居を待ち出て道具を持出し建水を假置いたし札元の次に座す上客次禮にて札を取り目付まで來る目付主人へ



一禮して札を取り札元へ送る札元は主人へ取次ぎ主人札元へ一禮いたし札を取り折居を札元へ返し置き手前へ行き札元は我札を取り折居の中の札をかきまぜ一つを取出し直ちに名乗り折居の中へ投げ込む此名乗の人立出て建水を持ち立ち手前に行く初服點てる札元は手前の人茶巾を取ると折居より札を出し置き茶碗出づると札を見て名乗ること合札の人答へ茶碗を取り座に歸りて飲み了り何々の札御除け下されと札元へ一禮

いたし茶碗を爐傍へ戻し置き點前へ行く茶を點て出し主人は札元の札を名乗るのを聽きて立ち札元の次へ歸り座す以下同斷札元點前に當りたるときは折居より出てたる札を折居へ載せて主人に托し一禮して立ち茶碗を取り茶を飲み了り何々の札を御除けをと目付へ一禮す茶碗を爐傍へ返し點前へ行き茶を點て歸ると目付は札元の札と今出でたる札を折居へ載せ札元へ戻し一禮す一仕舞のときは札元札を残らず折居へ入れ之



れを主人に廻し主人札を入れて折居を札元  
 へ送る札元は取次いで目付へ廻す順に札を  
 入れ上客に折居を止め置く主人出てゝ建水  
 を引き道具を引き折居を上客の前へ取りに  
 行く主客總禮折居を引き後送禮にて了る  
 一點前へ行き仕舞いたし居る人の札は下座の  
 人取りて折居へ入れ上へ廻すこと  
 一札元點前へ行くときは折居札は主人に托す  
 る方宜しとす  
 一仕舞の人點前へ立ち行くときに札を下座に

托し置くこと

一仕舞の人茶碗を取り入れ總禮あること  
 一主人柄杓を引き水指の蓋を閉めるまでに菓  
 子煙草盆は上客の方へ戻し置くそれまでは  
 煙草盆菓子は一ツ所に置くこと宜しからず  
 一員茶は話をなし居ても苦しからず  
 一目附札元主人は菓子煙草盆を用ゐず  
 一札元上客へ一巡相済むと云ふて出でたる札  
 を入れ折居を上客の前に持ち行き上客より  
 順に札を折居へ入れ目附并に主人も入れ札



元も又入れて折居を上客の前に持ち行き置  
いても宜し

一札元は廻り點の員茶には御摸合はいたさず  
一主人初服を點て若し札に當りたる時は茶を  
飲み續いて又茶を點て出すこと

一七事式は夏にても男女とも足袋を用ゆるが  
定法なれど員茶に限り男子は夏季には之れ  
を用ひず

一札元茶巾の時折居より札を出し直に名乗る  
事あり此時は其相當の札の人答へると菓子

器は其人の前へ廻り來る直ちに菓子を取り  
食し終りたる頃に茶を點て出ださるゝ都合  
なり即ち茶碗を取りに出て茶を呑む此後は  
例の如し而して此法による時は手間を取る  
事少なく從て連客をして退屈せしむる事無  
き様になりて手續の都合宜きなり

### 花 寄 之 式

一花寄の古式は折居を用ひざれど現行はれ  
ず今世行はるゝは玄々齋好の式なり依て左



に之を記さん

一花寄は人数に限りなし

一花寄には人数だけの花器を座敷に置くべし

勿論竹籠銅器陶器何にても種々取合せ床書

院違棚葎屏風垂撥等に並べ掛け置くべし

一座敷は廣間を用ふべし

一花器には凡て水七八分目入れ置くべし

一水谷にて用意すべきもの左のどとし

大折居 員茶の通り十種香の札の一と客

とを人数だけ入れ置く

花 臺 時候の花種々見計い花剪刀をも

組置くこと

水注臺 木地の片口をのせ茶巾ものせ置

く

一客溜りの間に連座する時主人迎に出て主客

總禮あり客次禮して席入すべし

一主折居を上客の前に持出し勝手へ入り花盆

持出て席の見はからひにて之を置き勝手へ

入り水次臺持出て花盆の下座に置ききて末

座に着き上客へ一禮あり上客其次に次禮し

茶



て折居を回し札を取ること凡て員茶に同じ目附より主人、主人より札元が取るなど皆員茶に同じきて札元は員茶の如く中の札混ぜて一枚取り札を名乗合す其札の人答へて花器の前へ行き常法のごとく配りの状態を見て花盆の前へ行き花を見つくるひ花を持ちて花器の前に行き花を生け終る更に水次臺の前に行き水次を取り水を次ぎ元の座にかへるなり此客が水を次ぐ時札元は次の札を取り前の如く名乗り次第に何れの客も花

を活けるなり扱皆の札を名乗り終らば札元は員茶同様に折居を片付けて順次上客へ返す主人は花の終るを待ち立ちて水次臺を引き花盆も引く此間に上客は折居を向前に廻して已の前に置く主人出て上客の前に座し總禮さて主人折居持入る客順次に待合に退出す、主人送り禮に出ること例のごとし一札元當りたる時は折居を主人にたのみ置くこと廻り點員茶に同じ此時主人の所作も員茶に同じ但し茶巾の時札を出す代りに水次



の時札を出すだけの違あり

一札御除など員茶の如く云ふことなし

一花は花盆の上にてこしらへること

一札元が札を名乗るは前に當りたる人元の座に歸りたる時なり

一花器は床の上の方を第一とし順にならべる事也

一花よせは古は風爐の節のみ行ひたり之は風爐に回り炭なき故其代りなりされど今は風爐とも行ふなり

小習十六ヶ條名目

一茶筌莊濃茶并に薄茶點前

一茶碗莊

一茶入莊

一茶杓莊

一貴人點濃茶并薄茶點前

一重ね茶碗濃茶并に薄茶點前

一包服紗濃茶點前

一長緒茶入扱ひ

茶



- 一 入子點濃茶并に薄茶點前
- 一 大津袋の扱ひ
- 一 貴人清次濃茶并に薄茶點前
- 一 壺莊の式
- 一 軸莊の式
- 一 花所望
- 一 炭所望
- 一 盆香合

當流相傳の順序

- 一 小習事
- 一 唐物點傳
- 一 盆點傳
- 一 眞奥儀十二段の内の行臺子
- 一 茶通函點傳
- 一 臺天目點傳
- 一 行奥儀十二段の内の行臺子

但外十段は二子相傳の事

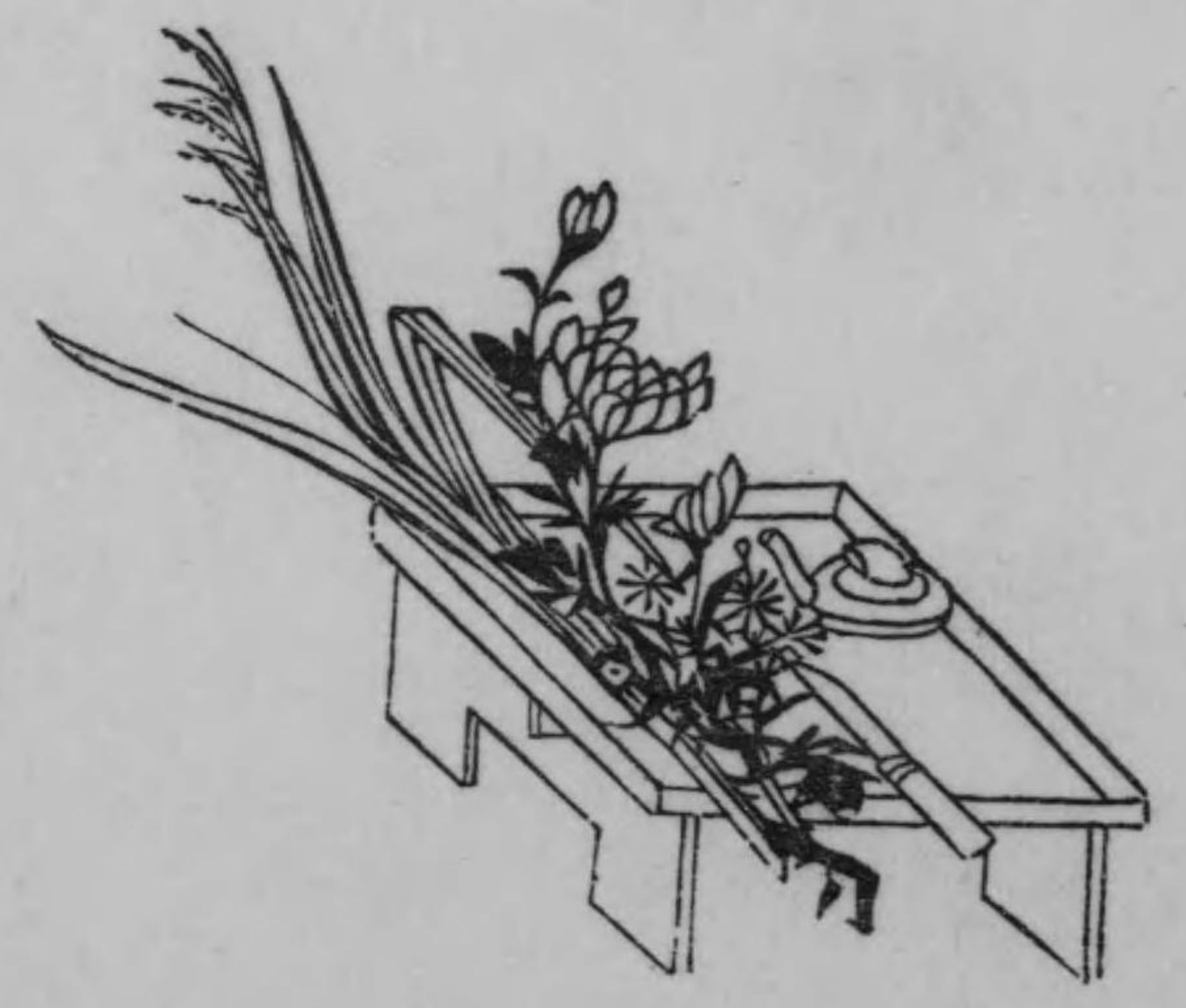
茶箱點の名目

- 一 月の點前
- 一 花の點前
- 一 雪の點前

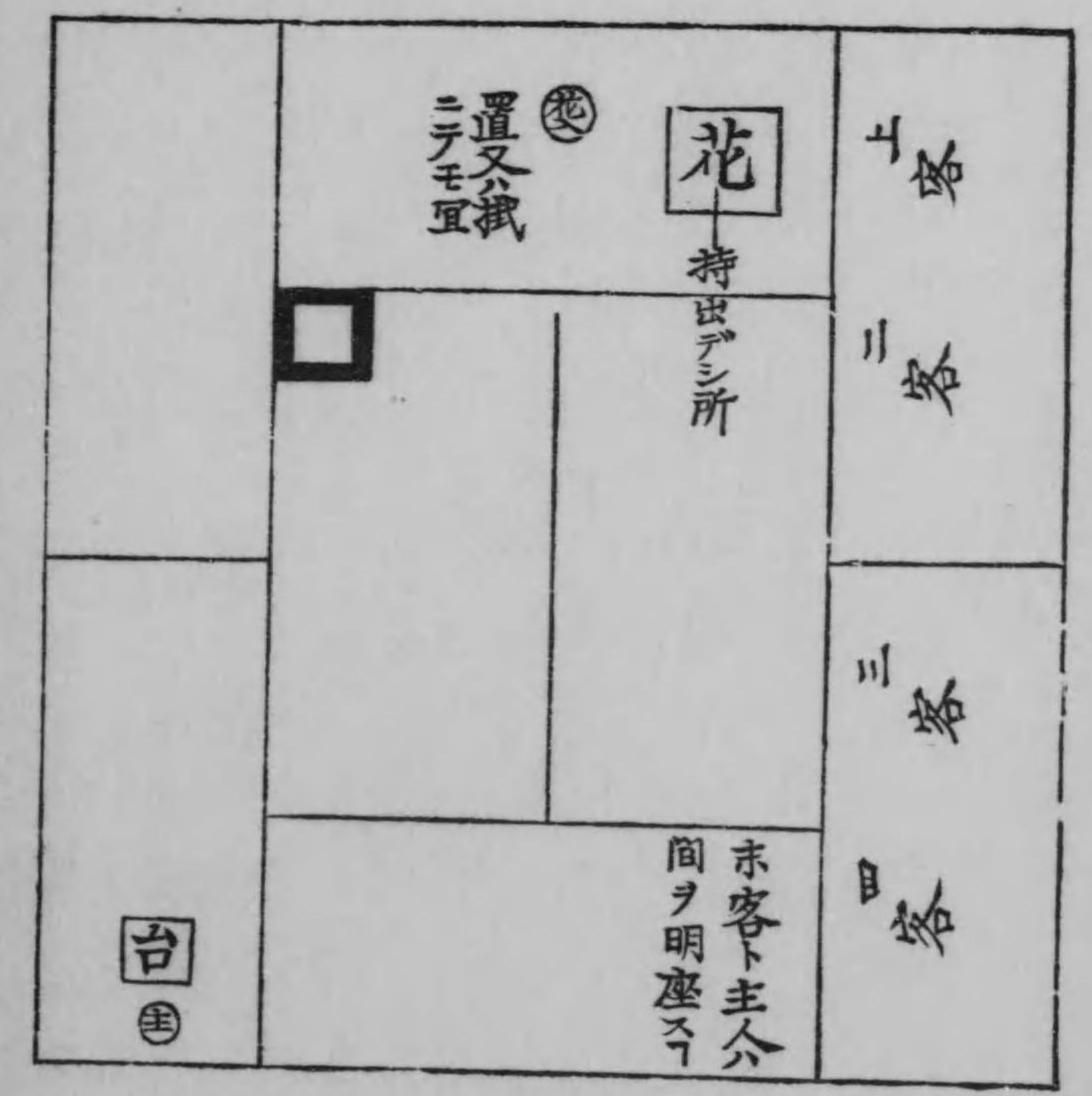


茶  
千立室

廻り花用花臺の圖

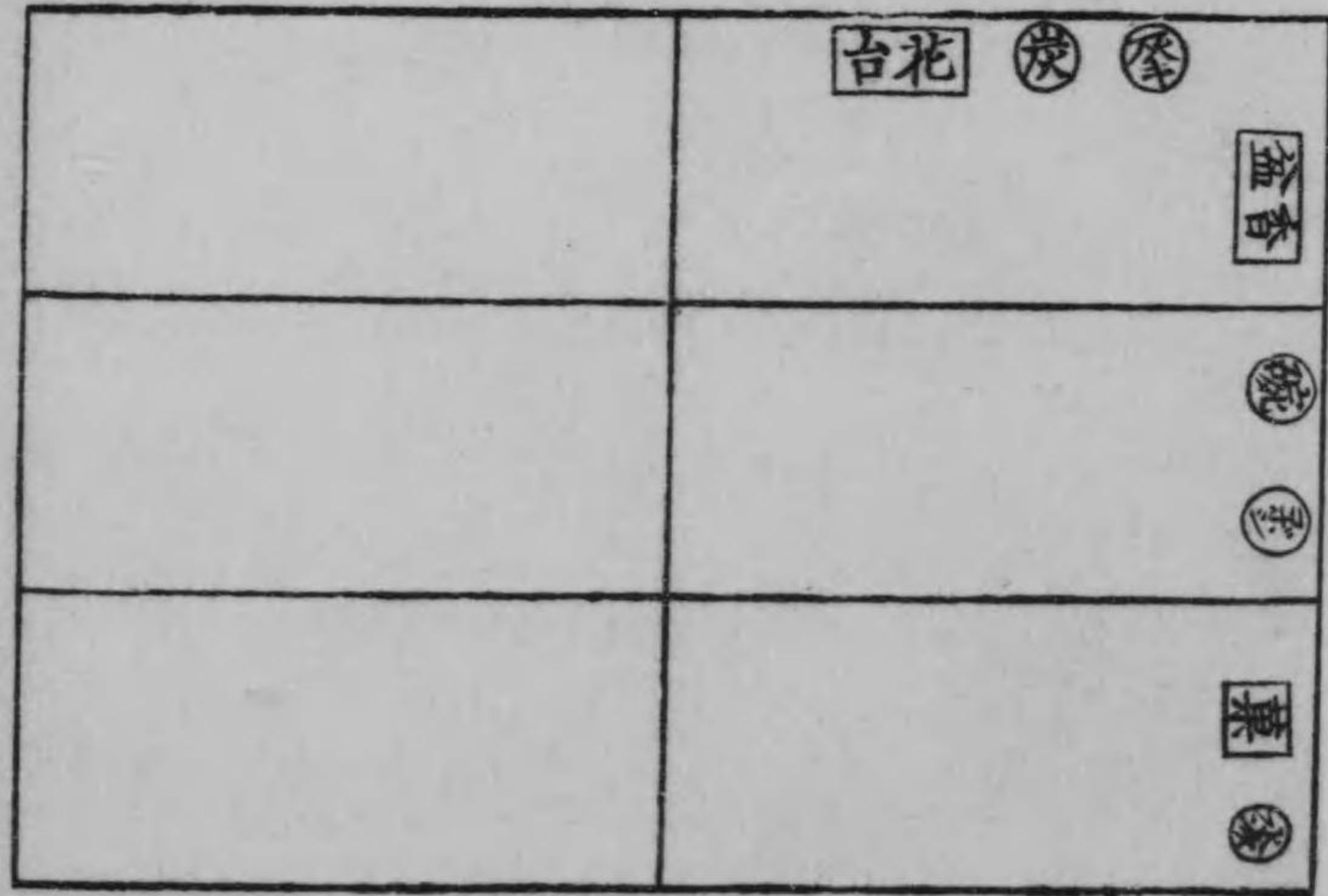


廻り花席の圖

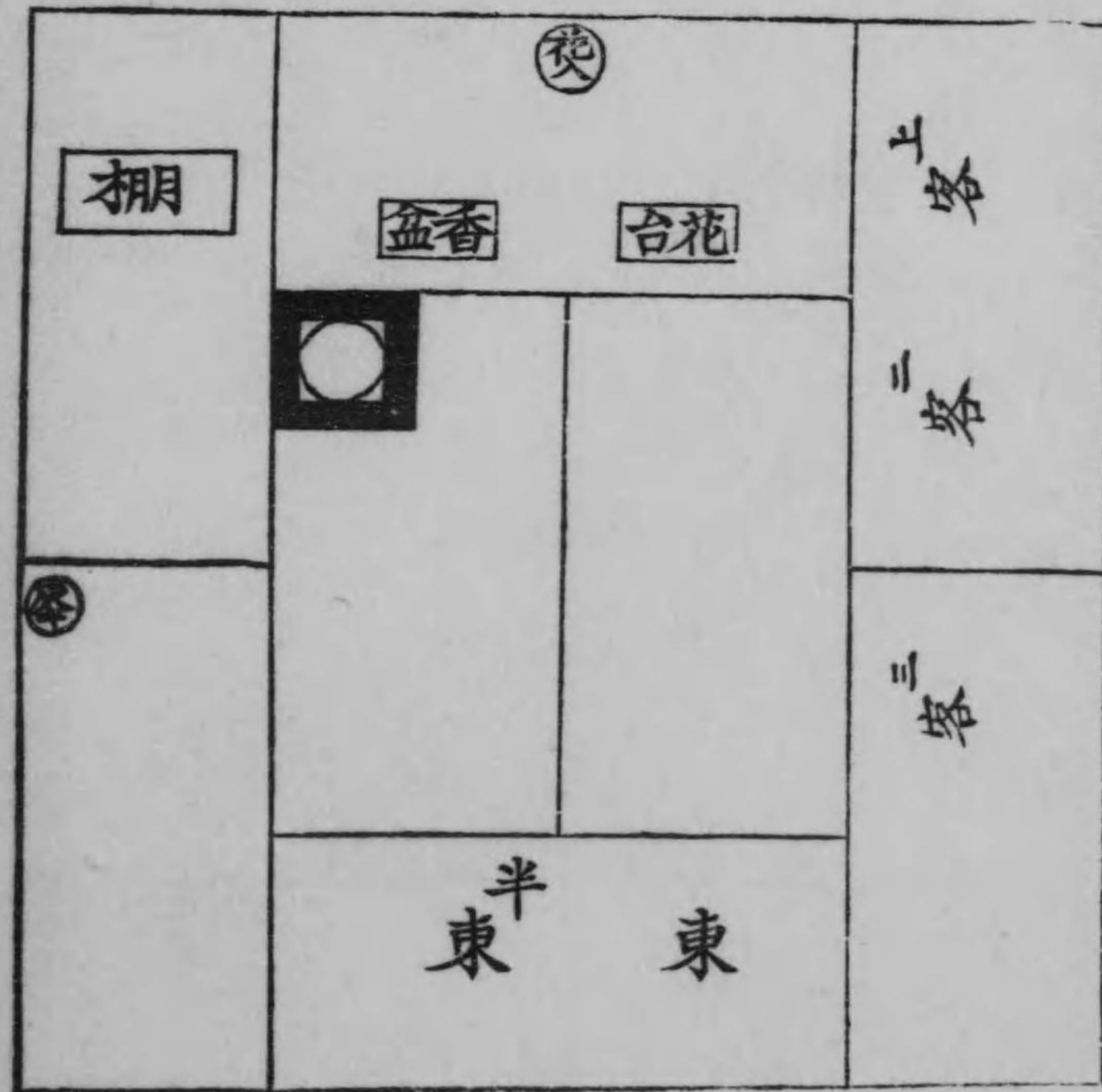


千立室  
其編



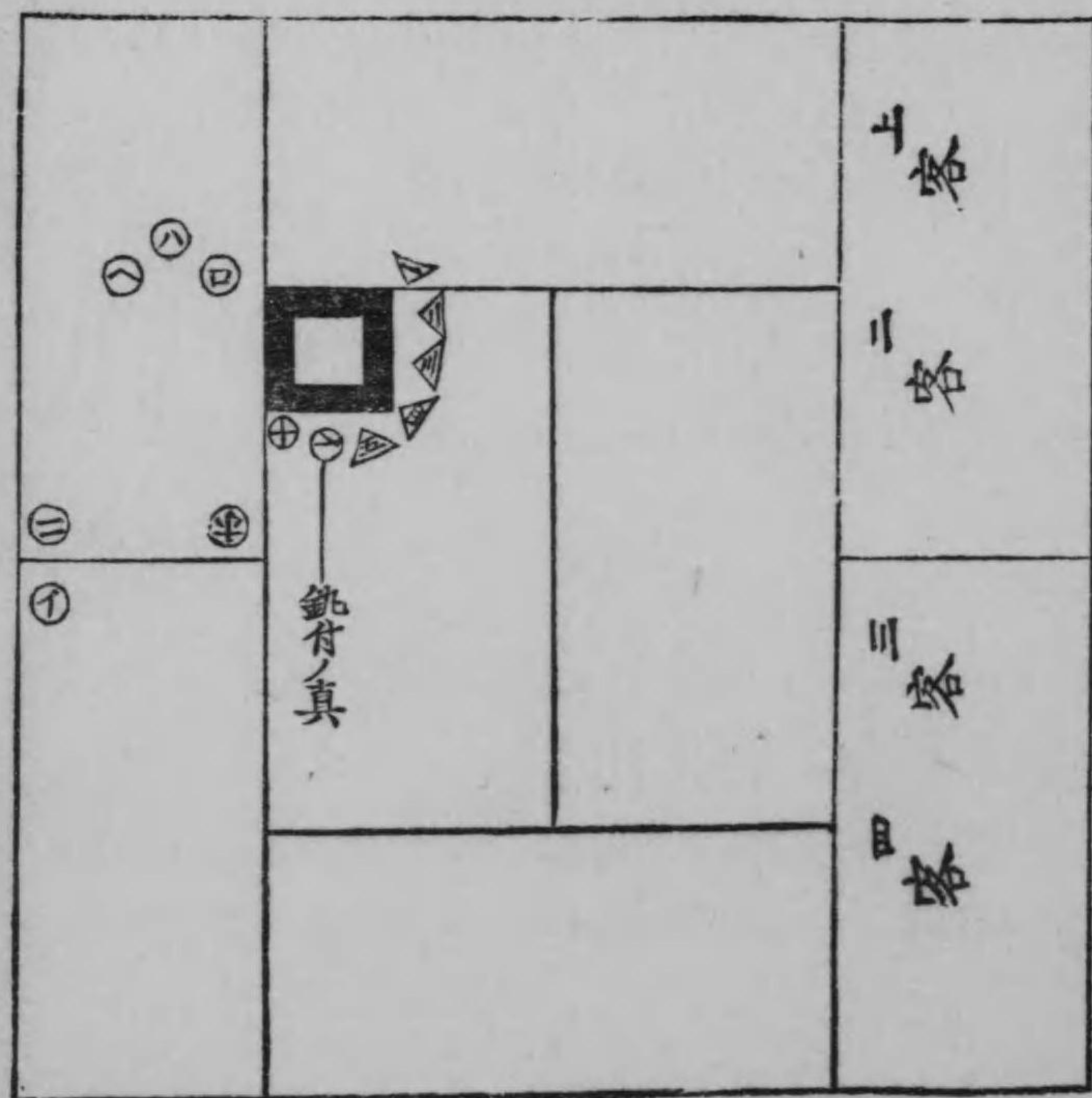


圖間のり溜に并席茶式の座且

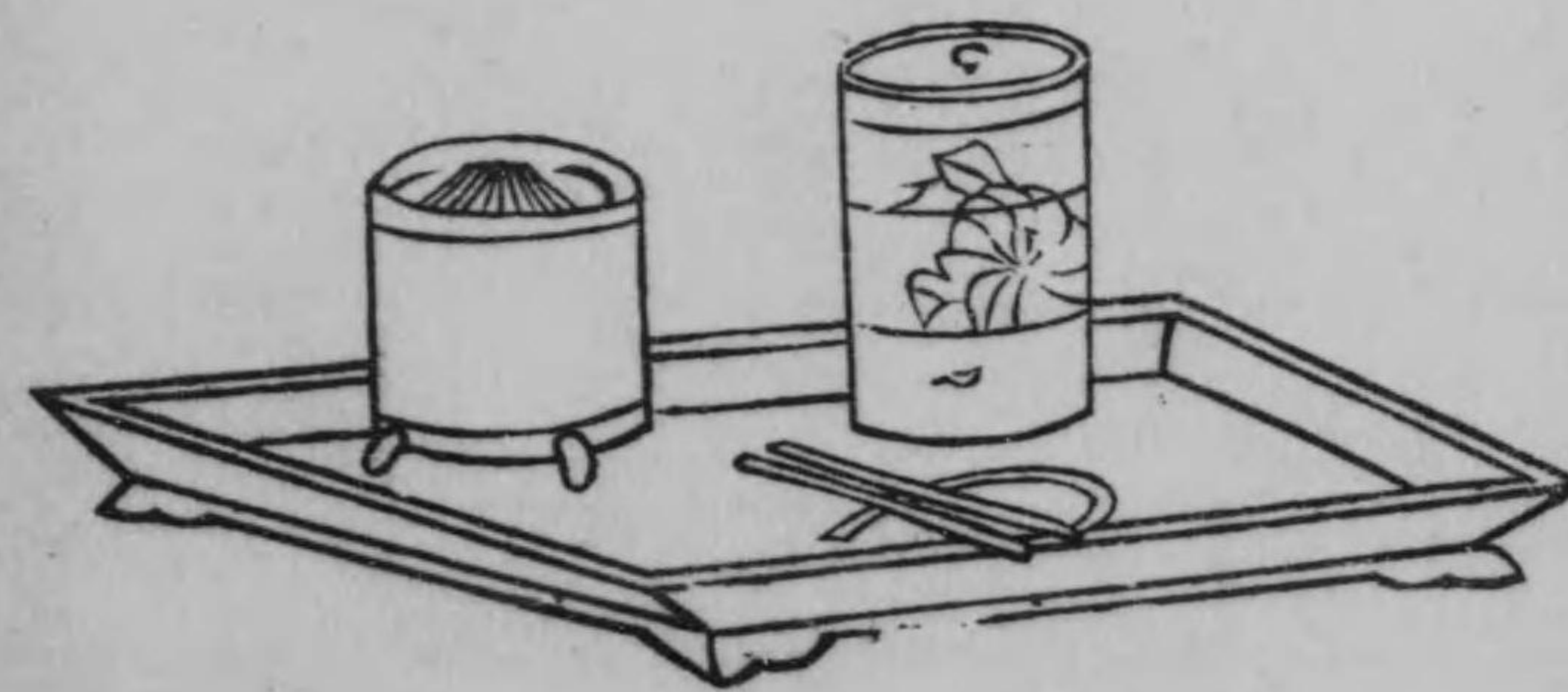




廻り炭茶席に溜りの間圖

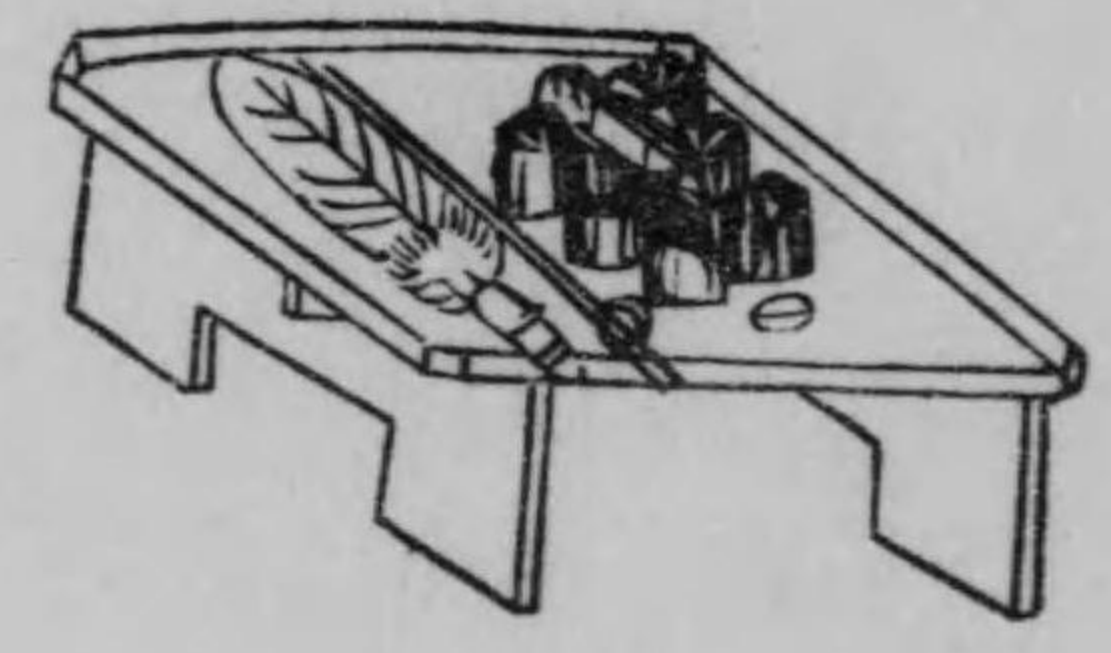


香盆の圖

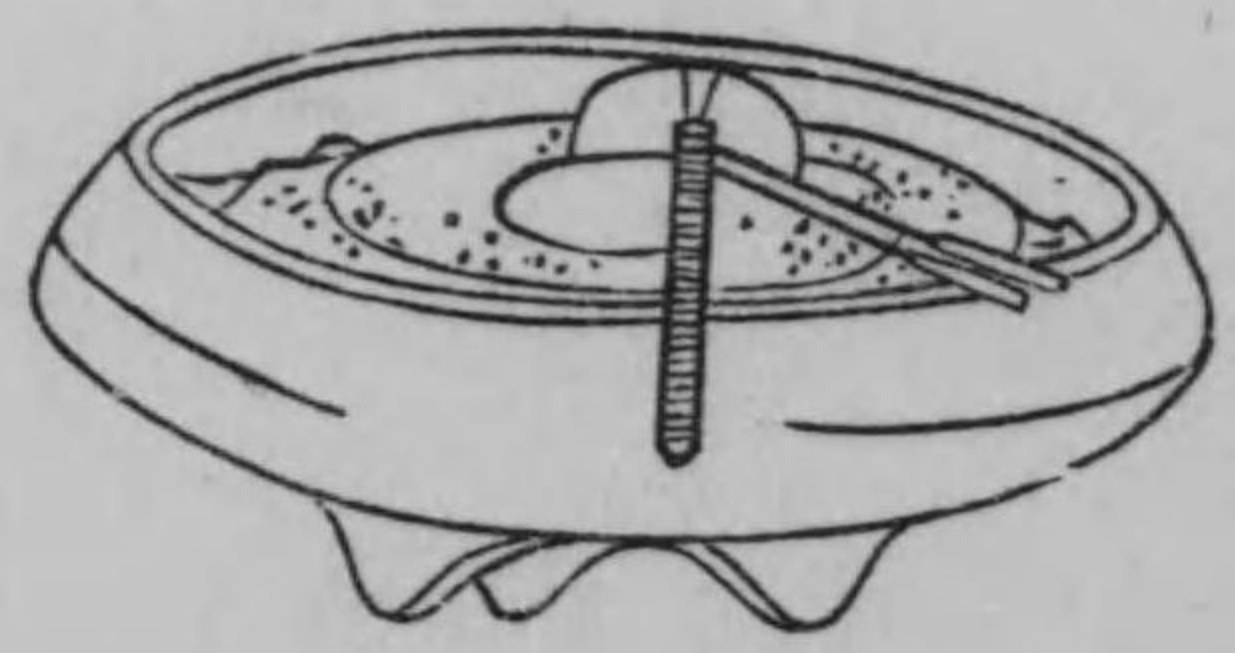




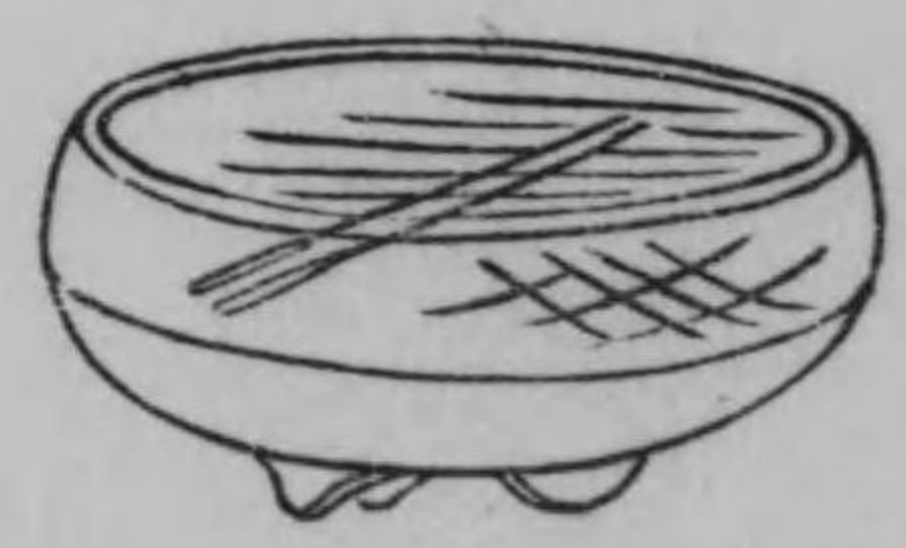
茶  
の  
た  
ま  
の  
六  
之  
巻  
千  
玄  
室  
共  
編  
一  
巻



炭臺の圖



巴の半田

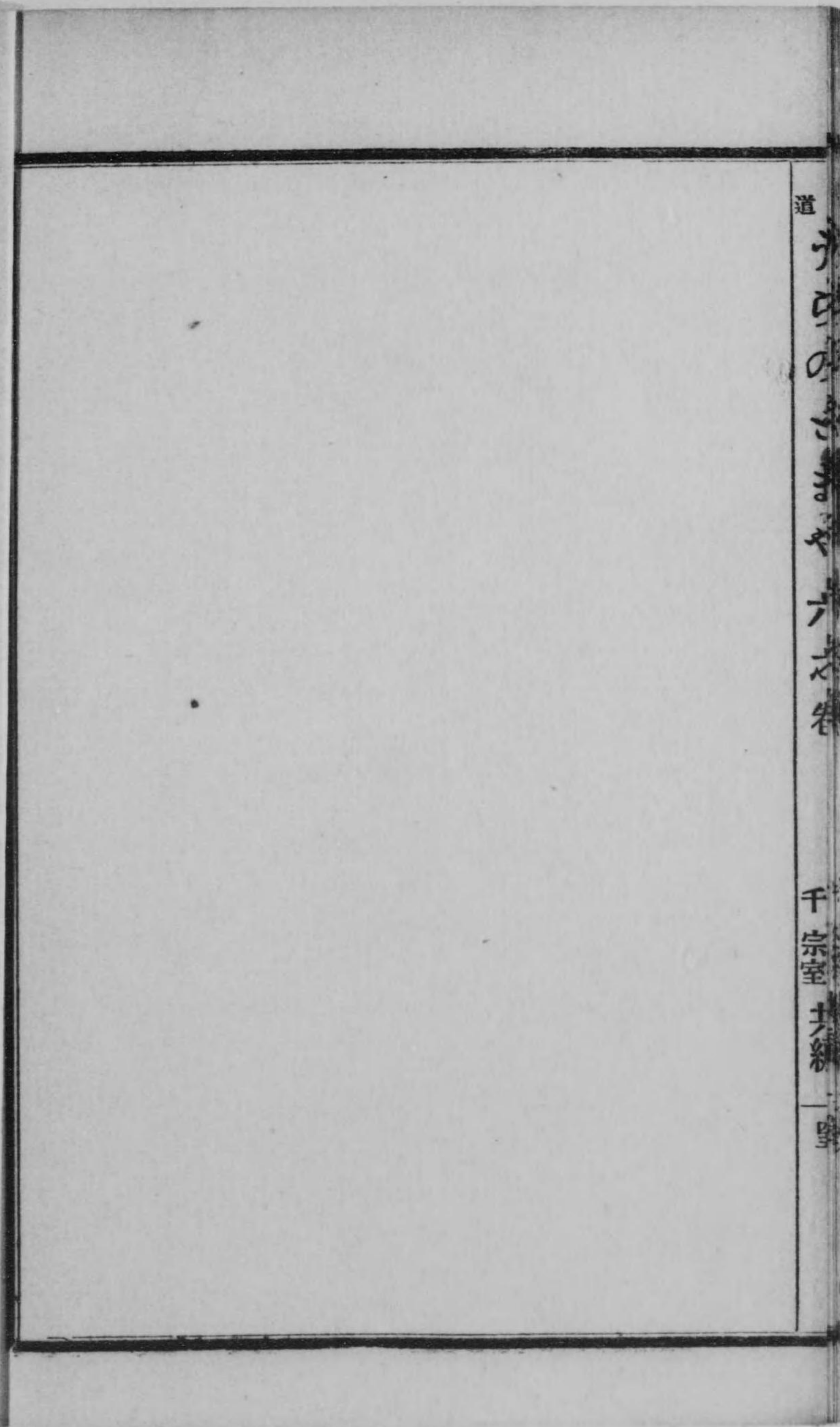


筋の半田

	炭 ④ ⑤
	⑥ ⑦

道  
の  
た  
ま  
の  
六  
之  
巻  
千  
宗  
室  
共  
編  
一  
巻



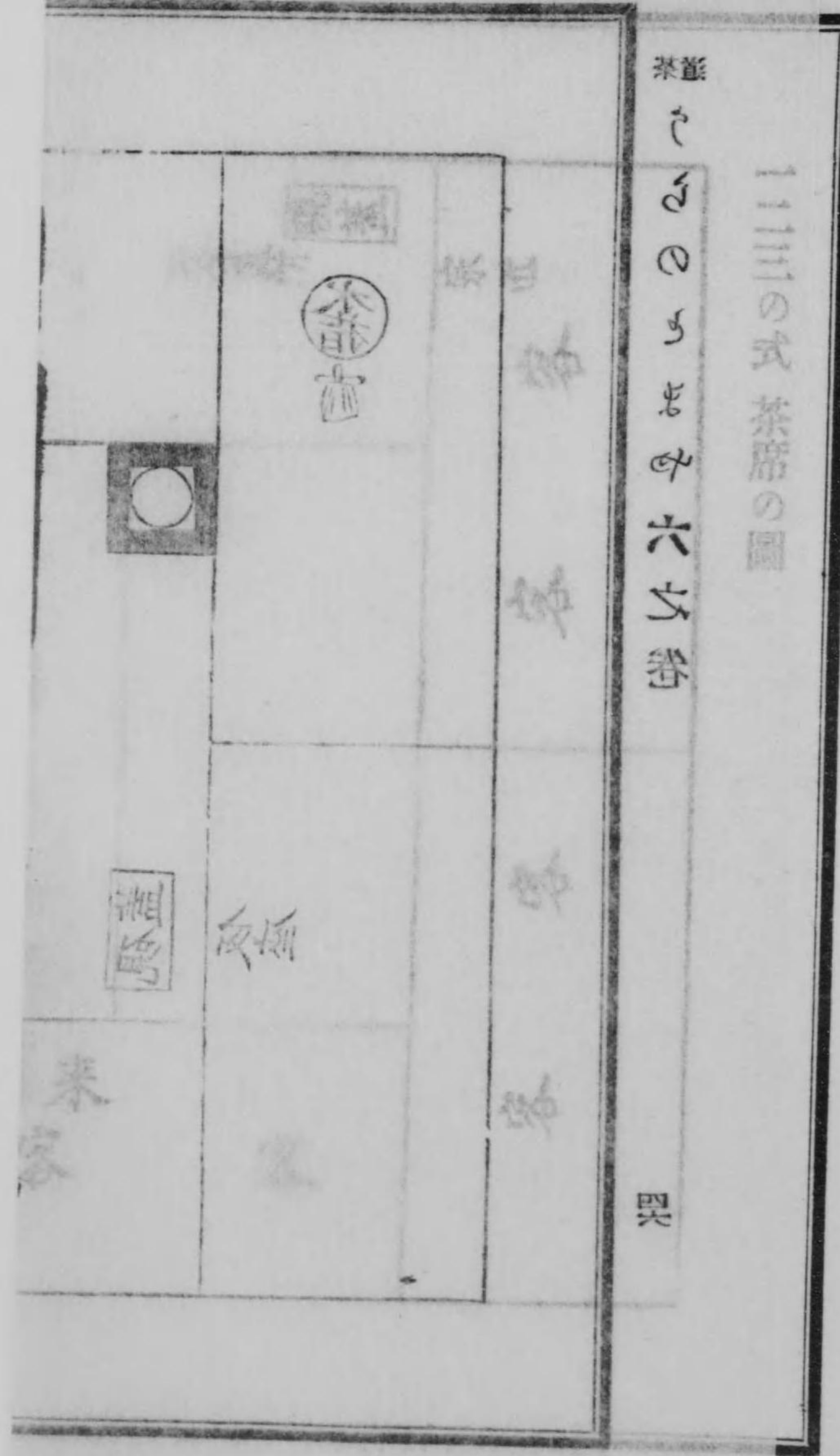


茶室

のしよみ六文巻

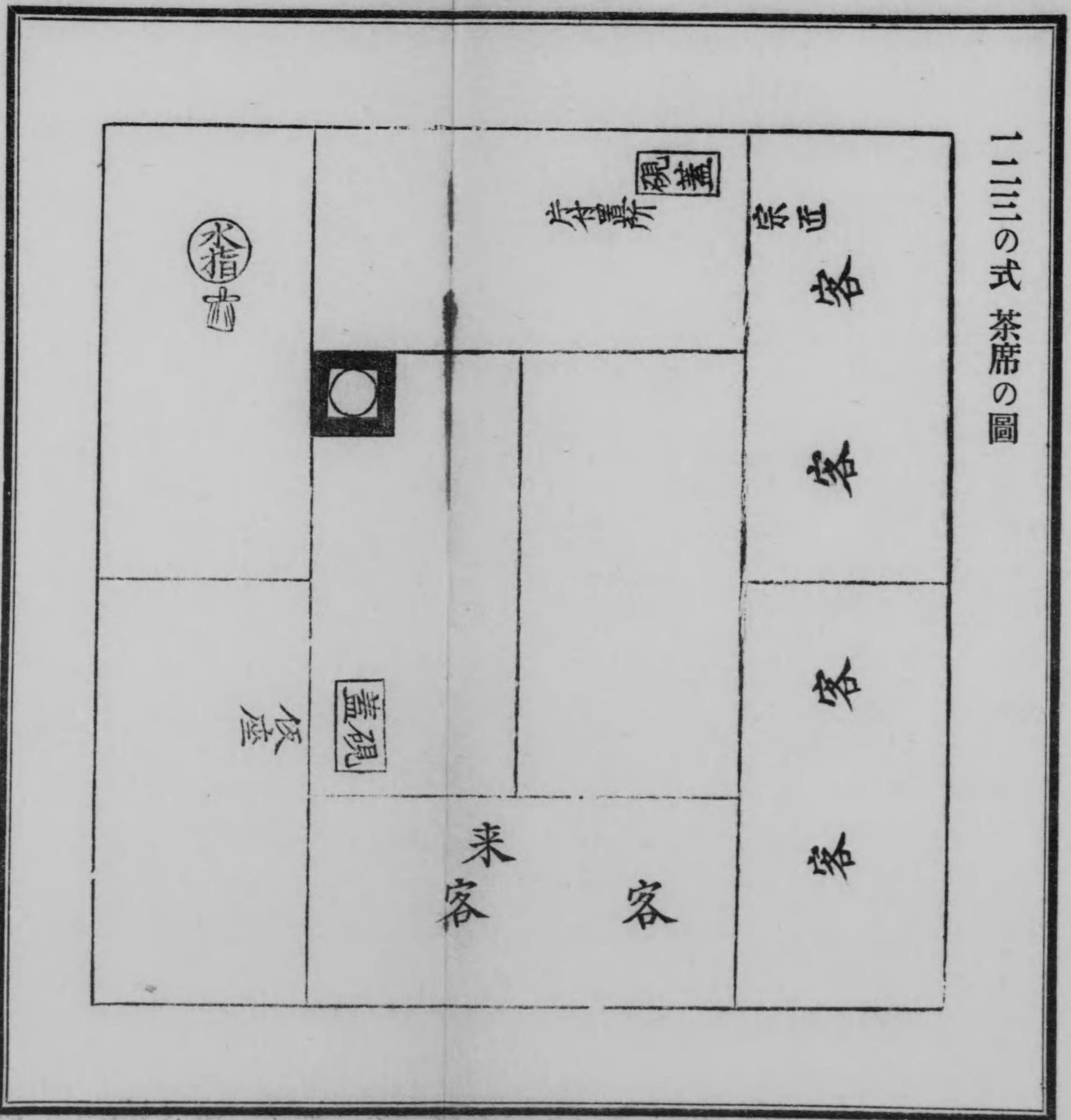
一二三の式茶席の圖

奥





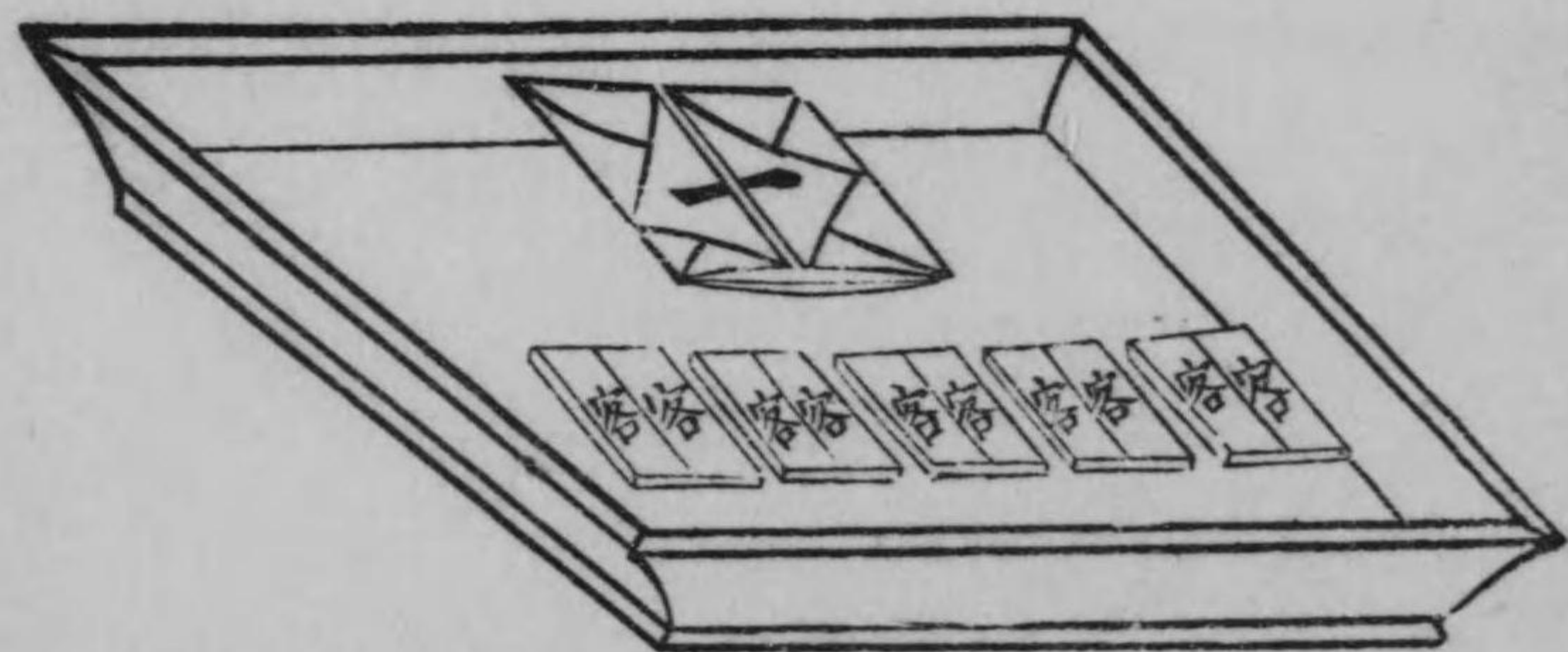
二三の式茶席の圖



茶道  
うらのとまや六之卷



圖の在べ並に中盆を箱札 式の三二一



茶うらのとまや六之巻

一二三の矢茶煎の圖

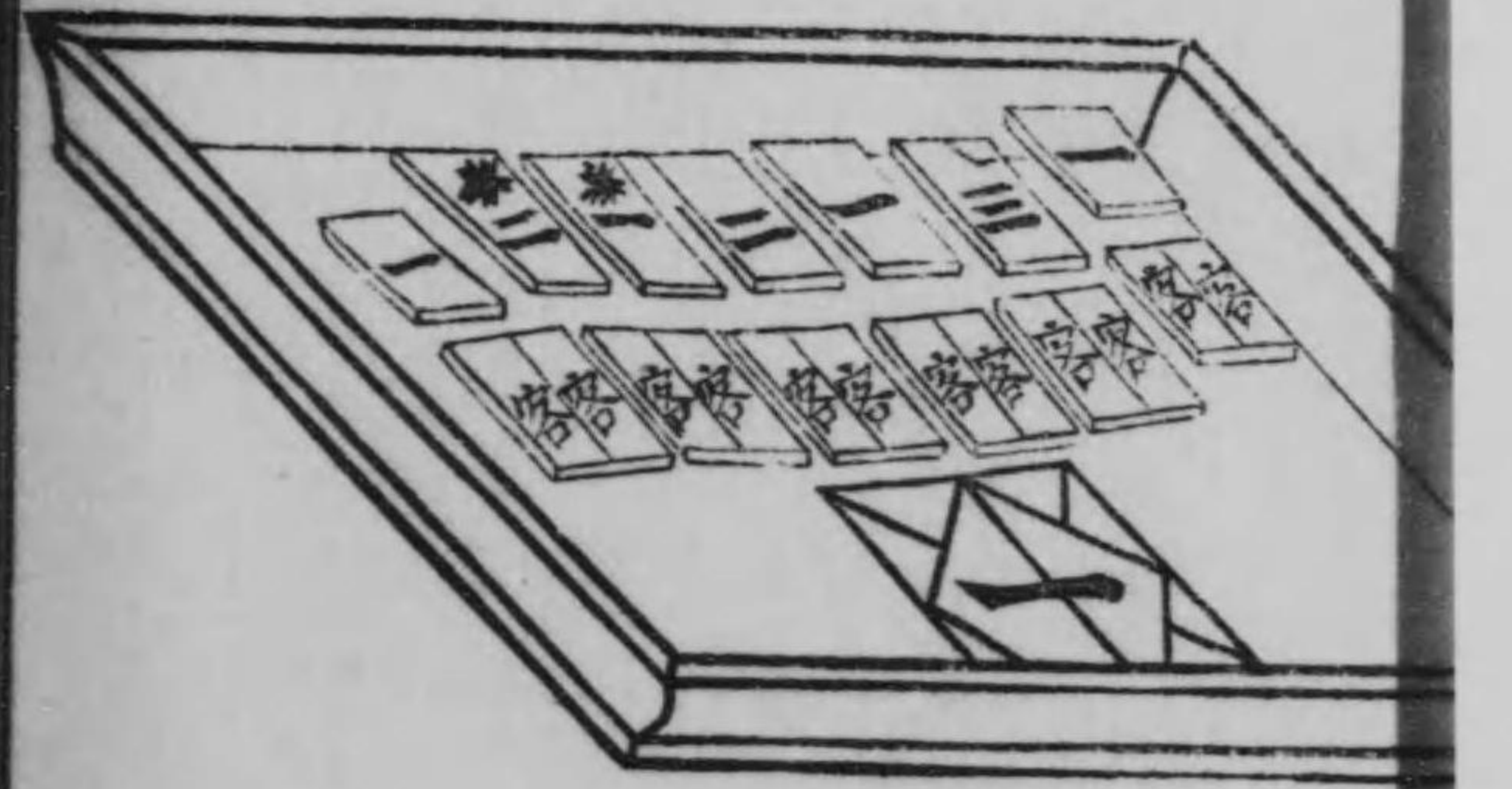




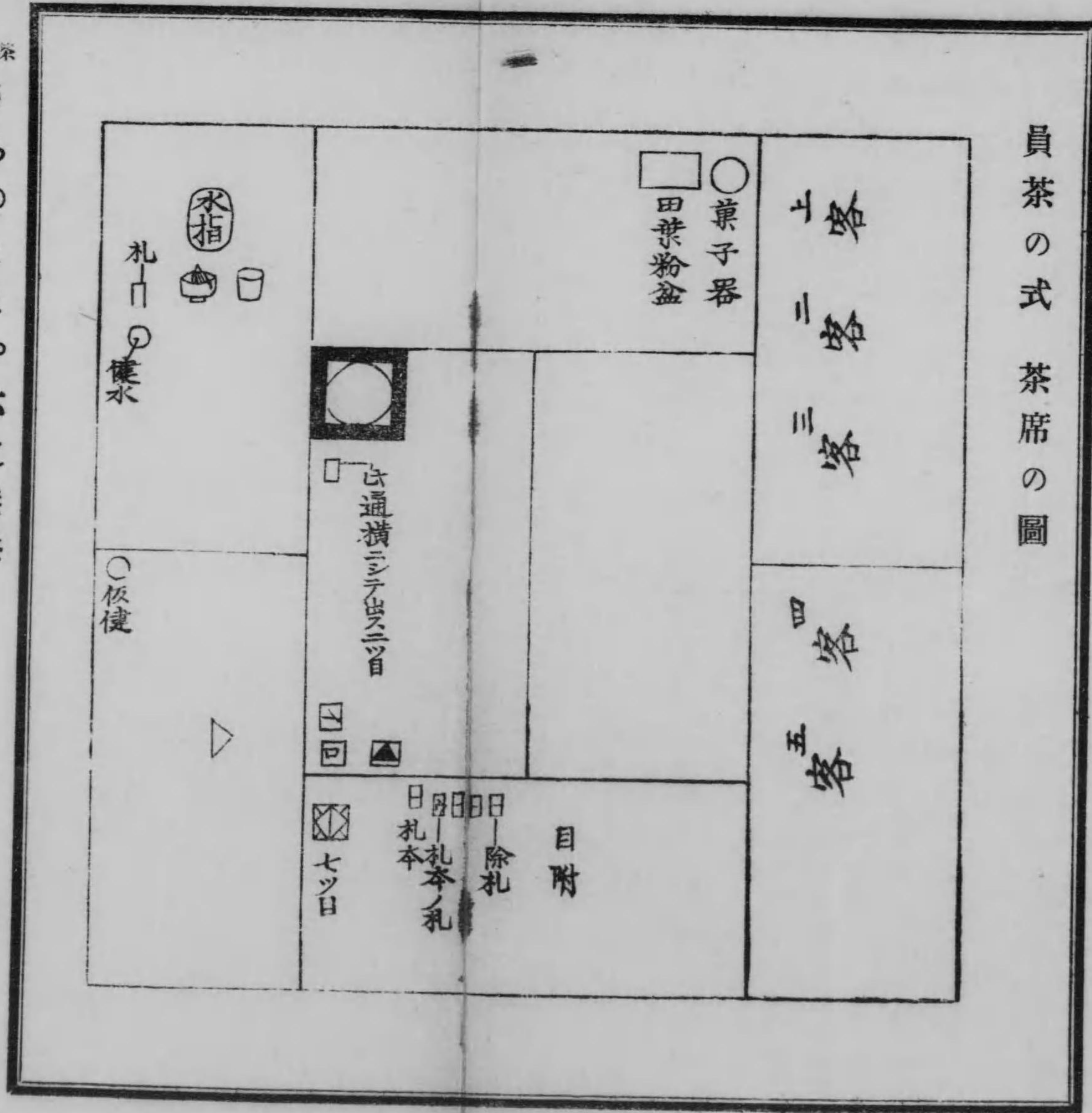




圖のたち打を札同



員茶の式 茶席の圖

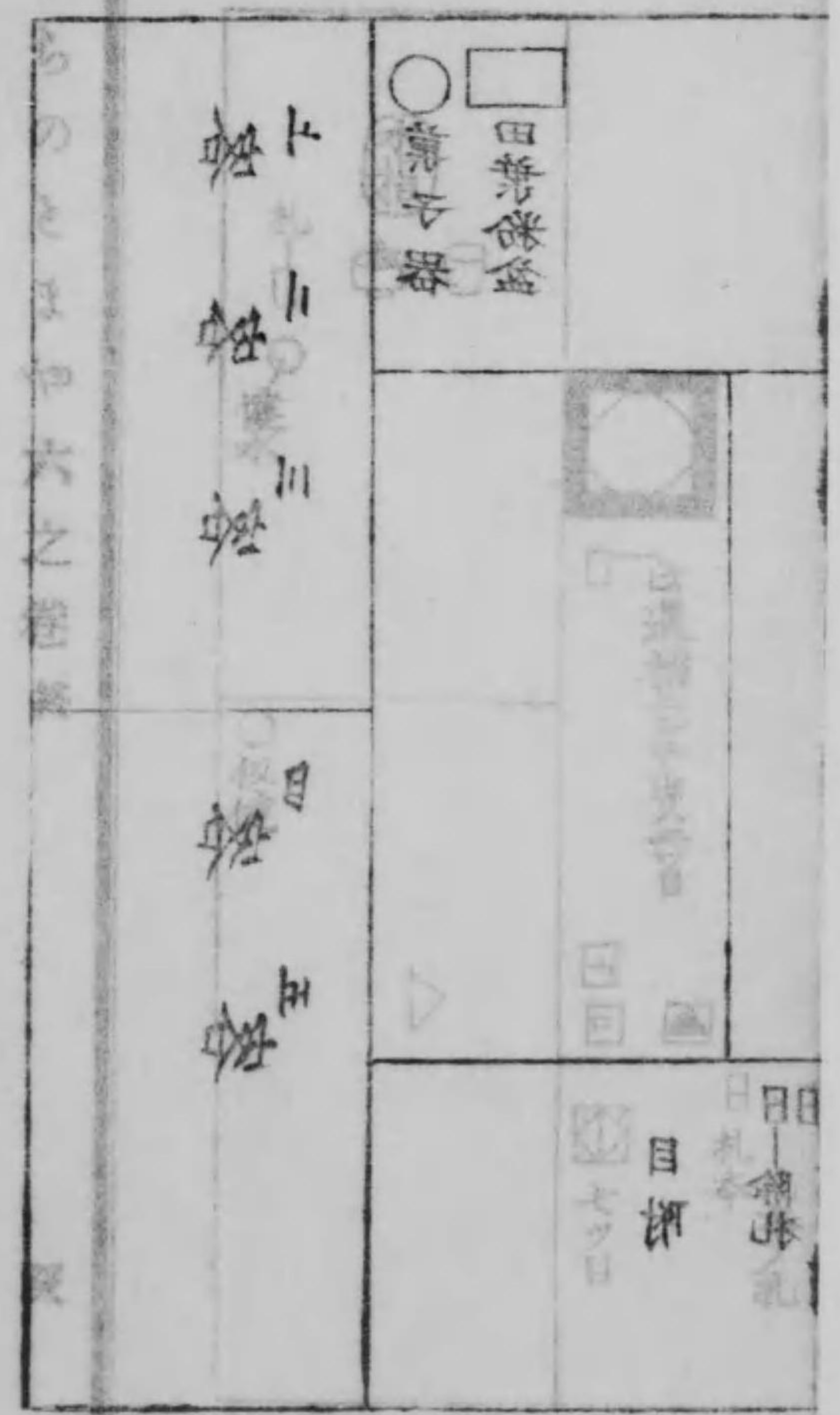


茶道  
うらのとまや六之巻終

哭



員茶の矢 茶席の圖



圓能齋好濃茶各服點手續

始め水指の前に茶入を莊り置く可し  
 客席に通れば亭主茶碗持出て茶入と置き合せ  
 勝手に入り建水持出て座に着き杓取り蓋置出  
 し杓を蓋置きに引きて總禮す以下茶巾にて茶  
 碗拭ふまで通常の濃茶の如く扱ふて可なり  
 茶杓取り茶入れ取り茶を茶碗に入る(茶を三杓  
 入れて(客分と心得可し)茶入の蓋を閉じ元の位  
 置に戻し茶杓取り茶を捌き茶杓を元に戻し柄



杓取り湯を茶碗に汲む(此時一杓にて加へ杓無し)

茶筌にて茶を點じ茶碗を上座に出す  
上客茶碗取込み連客總禮なす

正客直ちに茶を呑む

亭主は上客の一口呑み始むるや茶の加減の可否を聞き直ちに立ちて茶道口に座し普須磨を開く此時兼て水屋の者圖の如き長盆に茶の入りたる茶碗四個を列べ置きたるものを亭主に渡す



亭主長盆受け取らば前に置き普須磨を閉じ長盆を爐上に持ち來り直ちに柄杓取り長盆上四個の中先づ二個に湯を汲み一度流して返す又他の二個の茶碗に湯を汲み柄杓を筌に戻し茶筌を取り向ふ右側の茶碗より各點じ及ぼし茶筌を元場に戻し両手にて長盆持ち客附きを持ち廻りて前に置き疊の上にて前向に廻し客へ出す次客立ち両手にて右長盆を取り座に歸りてへり外に置きて次禮を成して前の茶碗より取り廻して末客に及ぼす 各自茶を呑む事



常の如し

亭主は客の長盆を持ち行くや居前になをり柄杓を取り中仕舞を成し再び客付に向ふ  
此時上客は茶銘を聞き菓子の挨拶を成す可し  
亭主は四客以下の茶の吞切りを聞くや居前に直り中仕舞を解き水指の蓋を開き釜に水一杓を差し茶碗の歸るを待つ上客は茶を呑むや拜見を成し之を次客に廻す可し次客以下右茶碗の拜見を成し末客拜見し終らば上客は出合にて亭主に戻す可し

亭主茶碗取り前置き總禮をなす以下常の如く變る事なし二客以下茶を呑み終らば順次茶碗を重ねて末座に繰り送り末客は四個の茶碗を盆上に置き左膝向ふへり外に假置く可し上客茶入所望通常の如し所望終る時末客は長盆を取り立ちて茶道口内左の方に戻し置く可し亭主建水持ち立て茶道口に座し普須磨を開け先づ長盆を外に出し置きて後建水を引く可し以下通例の如く變る事なし (完)

備考



各服點には上客の茶碗には古物を用ひ次客以下の四個の茶碗には新らしきを用ふ新らしき四個の茶碗は拜見なきものとす右略述は五客の時なりしも六客の時に及び以上の時は前重茶碗となし残る分を長盆に載せて可なり此手前は衛生を重じてよりの想案に由れば此の手前をのみ用ひずとも普通の呑み廻し法を用ふるも可なり茶の分量は前述の如く三杓より五杓までを

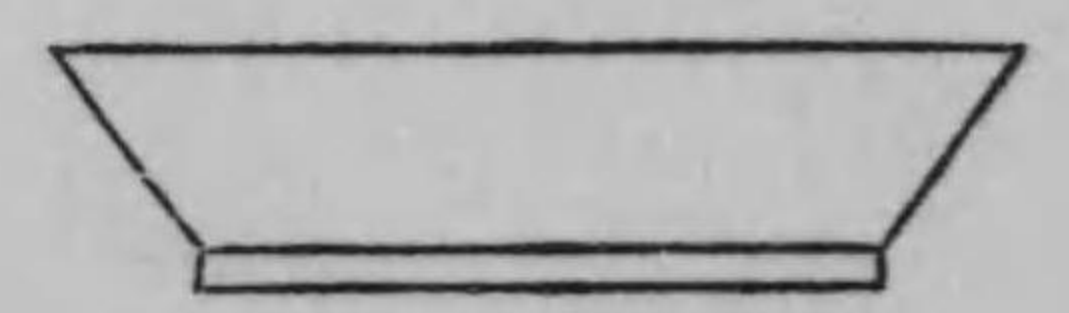
千宗室 其編 一

極度とす  
小服紗は始めの茶碗即ち上客の其れに添ゆ可し

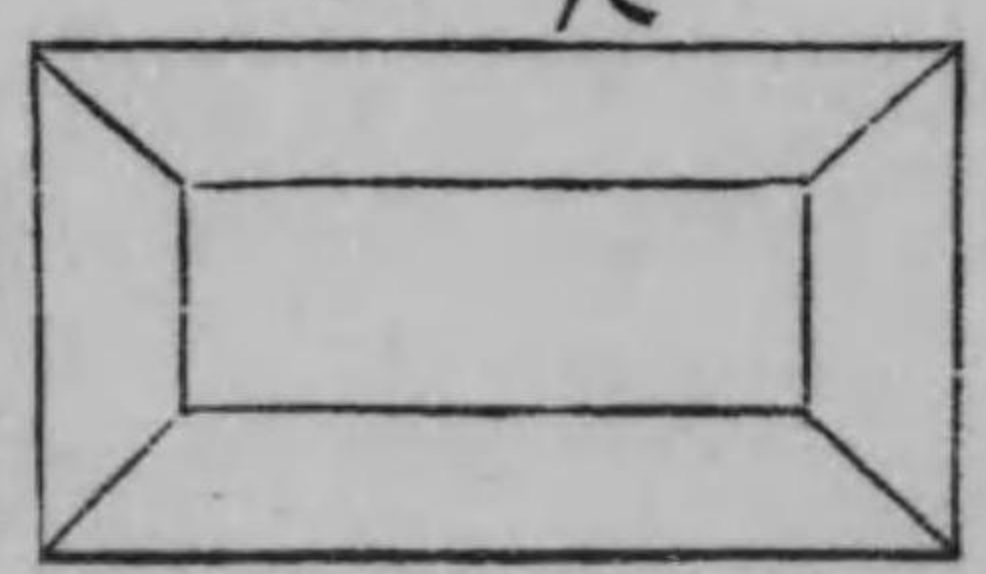
盆の寸法

長さ 一尺

幅 七寸九分



一尺



七寸九分

長盆の木は桐にてかき合せて塗も可なりは

茶 千宗室 其編 一

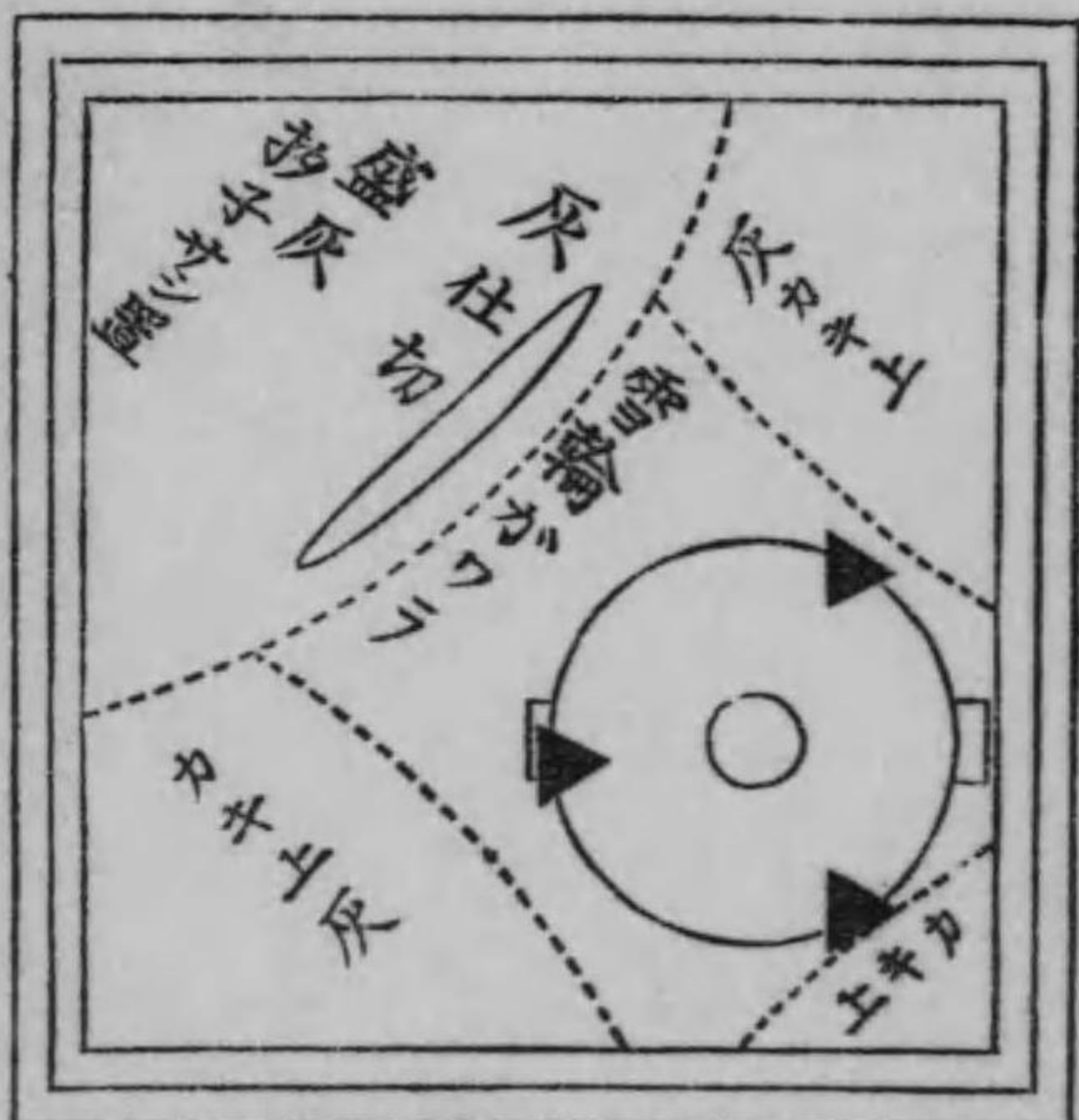


たそりなるを可とす  
盆は長盆にても丸盆にても其時の都合にて  
差支無之此手前は衛生上不得止場合に用ゆ  
る者なり

### 大爐手順書

玄々齋直書の寫

一大爐は一尺八寸四方四疊半左り切本法也  
但六疊以上の席よろし



如圖釜は右の前角に掛けべし  
五徳居方圖の如く一本爪上下の坐  
明りに向け  
灰は しめりふくき灰定法  
佗には わら灰等用て面白し  
爐段土色は ねずみの方よろし  
灰仕切 雪輪かわらの外古かわら  
見計よろし 但巾八寸位